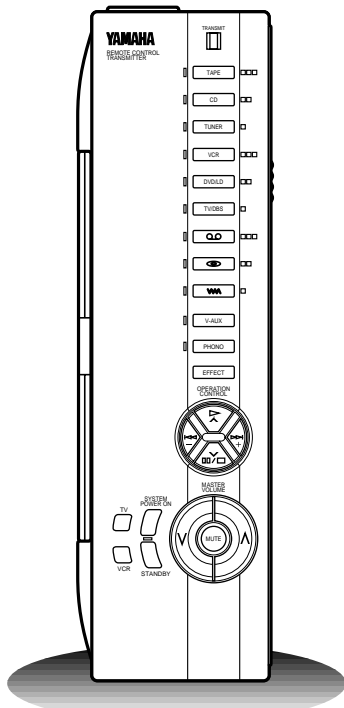
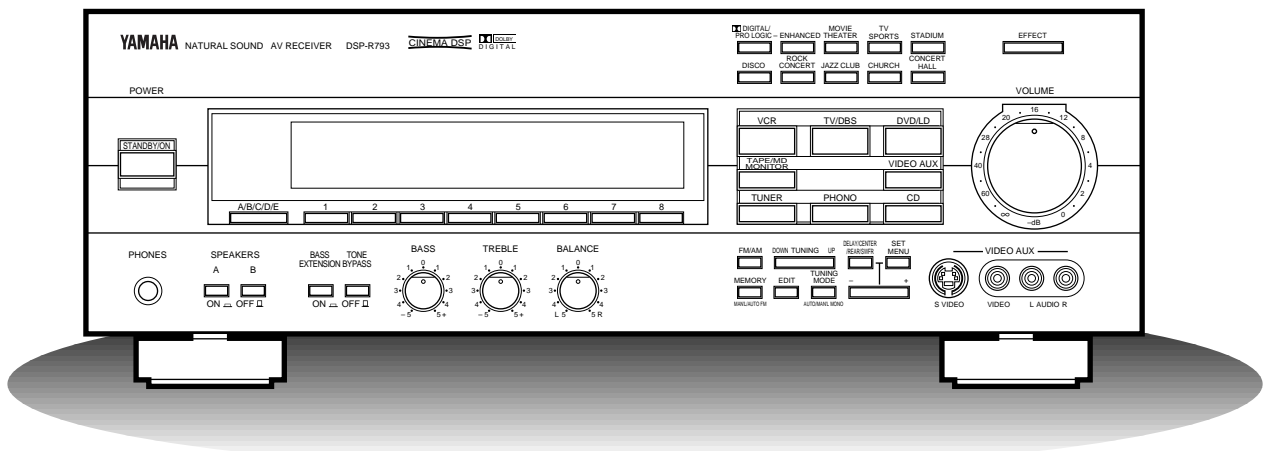


YAMAHA

NATURAL SOUND AV RECEIVER

DSP-R793

取扱説明書



このたびは、ヤマハ AVレシーバー-DSP-R793をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
DSP-R793の優れた性能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用前に必ずお読みくださいますよう、お願いいたします。
お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

本機は電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

ご使用前に必ずお読みください。

安全上のご注意 (安全に正しくお使いいただくために)

ご使用の前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。またお読みになったあと、いつでも見られる所に必ず保存してください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置されるとき		使用中に異常が発生したとき	
	<p>本機に水が入ったり、ぬらさないようご注意ください。火災・感電の原因となります。</p> <p>表示された電源電圧交流100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。</p> <p>本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。</p> <p>電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。</p>		<p>電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
	<p>水場での使用禁止</p> <p>風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。</p>		<p>万一機器の内部に水や異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p> <p>万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。</p>
ご使用になるとき			
	<p>本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。</p> <p>本機の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。</p> <p>電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。</p>		<p>万一、本機を落としたり、キャビネットを損傷した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
	<p>分解禁止</p> <p>本機のキャビネットは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。</p> <p>本機を改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p>	<p>絵表示の例</p> <p> 記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。 </p> <p> 記号は禁止の行為であることを告げるものです。 </p> <p> 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 </p>	



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

設置されるとき		ご使用になるとき	
	アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。		接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。		
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがありますので、次の点にご注意してください。		指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。 ・ テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。 		旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
	本機を設置する場合は、間隔をおいてください。放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、本機の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。	お手入れについて	
			1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。本機の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。
			お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。
	移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。		

本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されております。従って信号発生器やテストディスクの信号などを再生しますと、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。

特長

ドルビーデジタル（AC-3）対応

DSP-R793は、最新のシアターサウンド“ドルビーデジタル”を家庭で楽しめるドルビーデジタルデコーダーを搭載、DSP（デジタルサウンドフィールドプロセッサー）と組み合わせられた各種音場で楽しめます。

豊富な音場プログラムを搭載

大規模音場処理のキーデバイスとして、YSS245-Fを搭載しました。YSS245-Fはヤマハ独自のCINEMA DSP処理に必要な機能を内蔵、ドルビーデジタルプロ・ロジックデコーダーおよび高度なDSP音場処理をワンチップで実現しました。ドルビーサラウンド映画からコンサート、ディスコなどの幅広いソフトを多彩な音場効果で楽しむことができます。

多彩な入出力端子

入力端子は、AVソース/オーディオソースにマルチに対応。デジタル信号をダイレクトに接続できるCOAXIAL/OPTICAL端子は、ドルビーデジタルなどの最新のデジタルソースにも対応しています。出力端子は、音声チャンネル/映像チャンネルの豊富な出力端子に加え、サブ（スーパー）ウーファー端子を備えていますので、効果的な重低音再生を実現します。

FM/AMチューナー搭載


DSP-R793が搭載したFM/AMチューナーは、40局のプリセットが可能、FM多局化時代に対応しています。また、FM局のオートプリセット機能、プリセット局のエディット機能など、多彩な機能を装備しています。

オンスクリーン機能

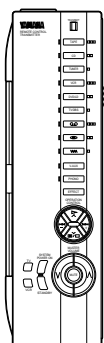
プログラム名やパラメーターの設定状況、スピーカーのレベル設定など、本機の操作状況をモニター画面に表示するオンスクリーン機能を装備しています。

多機能リモコンを標準装備

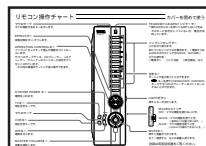
本機に付属のリモコンは、ヤマハの機器を集中操作する、オペレーションコントロール機能がプリセットされています。また、1つのキーを押すだけで複数の操作ができるマクロ機能も装備しています。加えて本リモコンは、他のリモコンの信号をラーニング（記憶）する機能を装備していますので、お使いになるシステムに最適で、オリジナルなりモコンに構成することができます。

* ドルビーライセンスングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、DOLBY、AC-3、PRO LOGIC、およびダブルD記号  は、ドルビーラポラトリーズライセンスングコーポレーションの商標です。
著作権1992年ドルビーラポラトリーズインコーポレーティッド。不許複製。

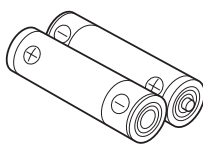
付属品をご確認ください。



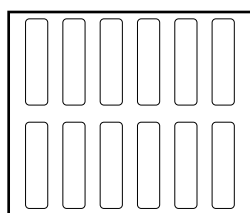
リモコン



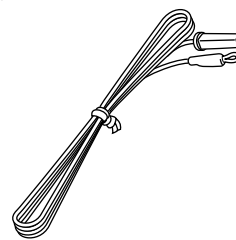
リモコン
操作チャート



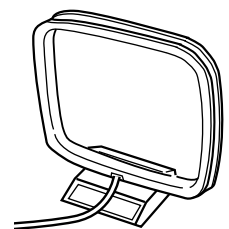
単3乾電池 2本



リモコンシート



FM簡易アンテナ



AMループアンテナ

目次

再生の準備

スピーカーシステムの構成	6
スピーカーシステムについて	6
スピーカーの配置	7
サブ(スーパー)ウーファーの設置	8
接続のしかた	9
アンテナの接続	10
オーディオ機器の接続	12
ビデオ機器の接続	13
デジタル対応機器の接続	14
他のアンプとの接続	15
スピーカーの接続	16
スピーカーのインピーダンスについて	17
電源コードの接続	18

リモコンの準備	19
乾電池の入れかた	19
乾電池のご注意	19
リモコンの使用範囲	19
各部の名称とはたらき	20
フロントパネル	20
リモコン	22
スピーカーモードの設定	24
スピーカーモードの設定のしかた	24
設定内容について	25
ドルビーデジタル(AC-3)について	27
スピーカーレベルの調整	28
調整のしかた	28

基本操作

再生する	29
機能を使う	30
リモコンで操作する	31
オペレーションコントロール機能を使う	31
マクロ機能を使う	32
機器個別の操作をする	33
音場効果を楽しむ	34
音場プログラムの選びかた	34
音場とは	35
CINEMA DSP音場プログラムの特長	36
HiFi-DSP音場プログラムの特長	37

FM/AM放送を聴く	38
選局する	38
プリセットのしかた	39
オートプリセットのしかた	40
プリセット選局のしかた	40
プリセット局の入れかえ	41
録音と録画	42
CDやFM/AM放送を録音するときは	42
ビデオソースを録画するときは	42
タイマー再生/録音	43
スリープタイマー	43

応用操作

音場プログラムをアレンジする	44
パラメーターの変更方法	44
パラメーターガイド	45
セットメニューの設定	46
メニューを選ぶには	46
メニューの内容	47

リモコンのラーニング機能	48
ラーニングできるキーについて	48
ラーニングのさせかた	49
マクロの設定	50
マクロの設定について	50
マクロ設定のしかた	50
ラーニング内容の消去	51
キーごとに消去するには	51
すべてのキーを消去するには	51

その他

故障かなと思ったら	52
参考仕様	54
ヤマハホットラインサービスネットワーク	56



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。
音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに関心を配り快適な生活環境を守りましょう。

スピーカーシステムの構成

本機にはセンタースピーカー、リア（サラウンド）スピーカーを設置して楽しむ音場処理機能があります。音場効果を十分にお楽しみいただくため、ご使用前にこの項目をお読みになり、適切なスピーカーシステムを設置してください。

スピーカーシステムについて

本機の音場効果を楽しむためには、合計5本もしくは4本のスピーカーが必要となります。

スピーカーの音色の違いによって、移動する主人公のセリフが不自然に変わることがないように、なるべく音色の揃ったスピーカーをお使いください。

小型のスピーカーをお使いの場合は、十分な重低音や臨場感をお楽しみいただくために、サブ（スーパー）ウーファーの追加をおすすめします。（8ページ）

ご注意

電源を入れる前に、スピーカーシステムのインピーダンスに応じてリアパネルのIMPEDANCE SELECTORを必ず設定してください（17ページ）。設定を誤るとスピーカーや本機の故障の原因となりますのでご注意ください。

スピーカーによっては、テレビ（モニター）の画面が乱れることがあります。画面近くに設置するセンタースピーカーやサブ（スーパー）ウーファーには、防磁型スピーカーの使用をおすすめします。

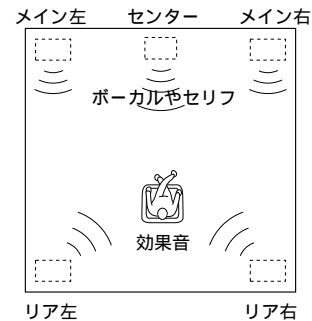
（テレビの画面が乱れる場合は、テレビとスピーカーを離してください）

スピーカーシステムを選ぶ

下記を参考にして、5スピーカーシステムまたは4スピーカーシステムのいずれかを選びます。スピーカーシステムに応じてスピーカーモードが決まります。

5スピーカーシステム（センタースピーカーを使用する）

従来の2チャンネルステレオで使用する2本の左右メインスピーカーに加えて、ドルビーデジタル（AC-3）やドルビープロ・ロジックサラウンドの効果を最大限に発揮させるためのセンタースピーカー、およびリスナーの後方に設置する左右リア（サラウンド）スピーカーの合計5本のスピーカーを使用します。



メインスピーカーの間隔が広い場合には、センタースピーカーの使用はセリフの定位などの改善に効果的です。

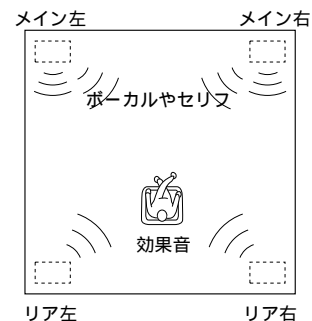
使用するスピーカーシステムに合わせて、スピーカーモードを設定します。（24ページ）

サブ（スーパー）ウーファーを追加するとさらに臨場感を増すことができます。（8ページ）

4スピーカーシステム（センタースピーカーを使用しない）

左右のメインスピーカー2本と、左右のリア（サラウンド）スピーカー2本合計4本のスピーカーを使用するシステムです。

ドルビーデジタル（AC-3）やドルビープロ・ロジック再生時のセンターチャンネル信号は、左右のメインスピーカーが再生します。



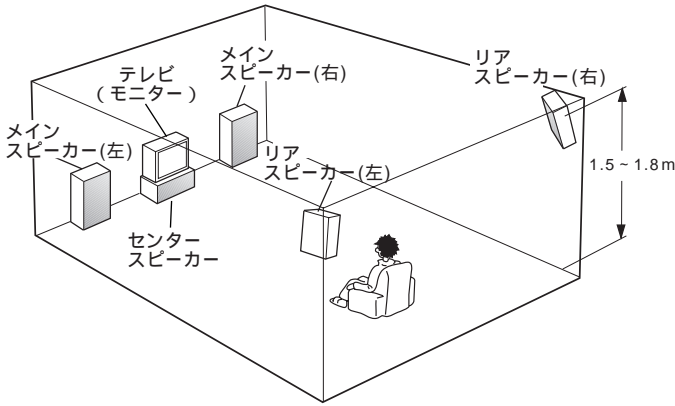
TVの両側にメインスピーカーを設置するような、スピーカーの間隔が比較的に狭い場合は、センタースピーカーを使用しなくても十分な効果が得られます。

使用するスピーカーシステムに合わせて、スピーカーモードを設定します。（24ページ）

サブ（スーパー）ウーファーを追加するとさらに臨場感を増すことができます。（8ページ）

スピーカーの配置

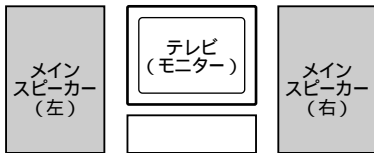
5スピーカーシステムの配置例



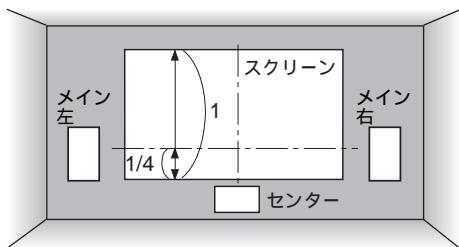
スピーカーは上図のような位置関係が理想ですが、厳密に揃わなくても十分な効果が得られます。

メインスピーカー

従来のステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。テレビをはさんで設置する場合は、左右のスピーカーとテレビの距離を同じにします。スクリーンを設置している場合は、スクリーンの両脇に設置してください。



スクリーン使用時の設置例



メイン左、右は、スクリーン下辺から1/4の高さが適当です。
センタースピーカーは、スクリーンのすぐ下中央に設置します。1本使いが定位の点で効果が得られます。

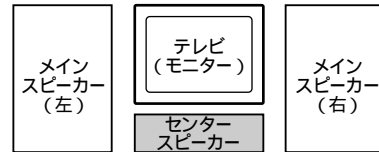
センタースピーカー

本機は、CENTER SPEAKER端子 (SINGLE、 DUAL) を装備していますので、1本または2本のセンタースピーカーを設置することができます。

センタースピーカーはテレビ画面とスピーカーの前縁をそろえ、できるだけテレビ画面に近いところに設置してください。

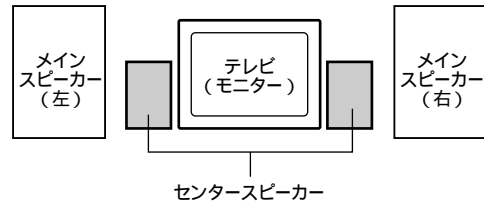
センタースピーカーが1本の場合

センタースピーカーが1本の場合はCENTER Cの+端子とセンタースピーカーの+端子を接続し、CENTER Dの-端子とセンタースピーカーの-端子を接続します。センタースピーカーはテレビの上か下に設置します。



センタースピーカーが2本の場合

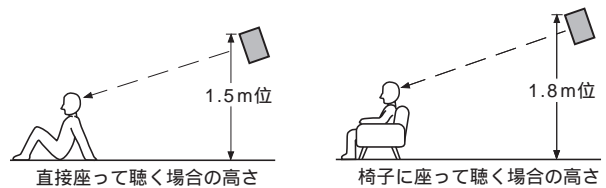
CENTER CおよびDスピーカー端子の両方に接続し、テレビ画面の両脇に設置してください。



リア (サラウンド) スピーカー

上図の配置例のようにメインスピーカーより左右の間隔を開けた後方斜めに配置し、スピーカーをリスニングポイントに向けてください。

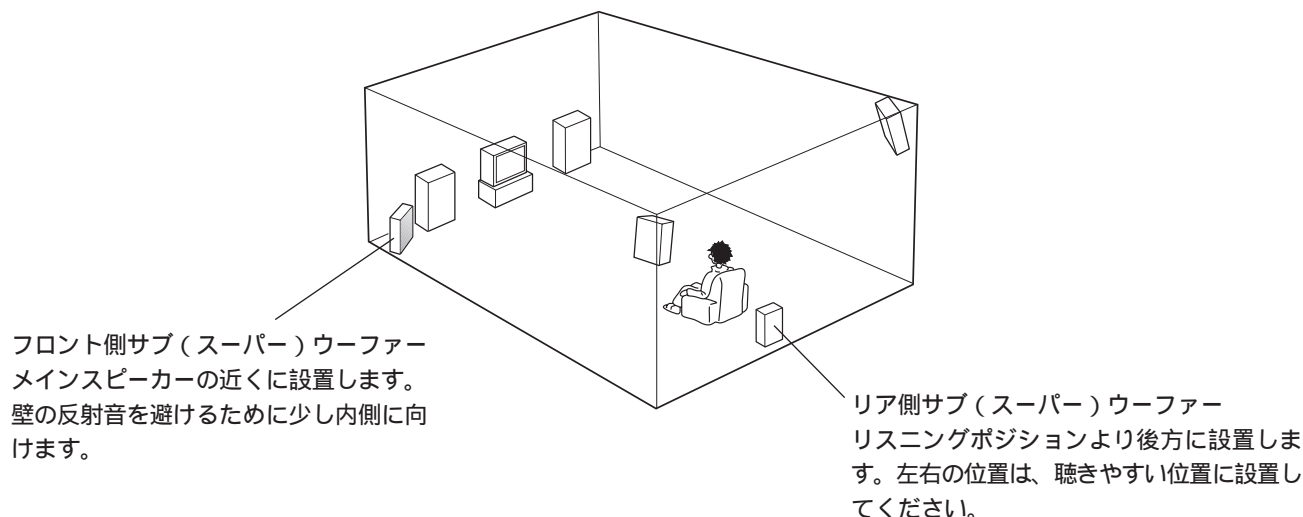
スピーカーの高さは、床に直接座って聴く場合床から1.5m位、椅子に座って聴く場合1.8m位が適当です。



サブ（スーパー）ウーファーの設置

スピーカーシステムにサブ（スーパー）ウーファーを加えると、映画の迫力や臨場感をリアルに楽しむことができます。大型のメインスピーカーを使用している場合も、良質のサブ（スーパー）ウーファーを設置すれば、大きな効果が得られます。

設置例



フロント側サブ（スーパー）ウーファー

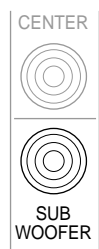
本機は、アンプ内蔵サブ（スーパー）ウーファー用のSUB WOOFER（出力）端子を装備しています。

SUB WOOFERの出力レベルは、リモコン（または本体）で調整することができます。

接続するときは

SUB WOOFER端子にアンプ内蔵のスーパーウーファーを接続します。

設置場所は、左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内振りに設置します。低音の聴こえかたは、スピーカーを置く位置と聴く位置の両方に影響を受けますので、設置場所を変えてお試してください。



ご注意

本機のSUB WOOFER（出力）端子には、ハイカットフィルター（90Hz）が内蔵されています。接続するサブ（スーパー）ウーファーのハイカット周波数は“最も高い周波数”でご使用ください。

リア側専用サブ（スーパー）ウーファー

フロント側にサブ（スーパー）ウーファーを設置しているときにも、リア側専用のサブ（スーパー）ウーファーを設置することができます。

映画ではリアチャンネル側の低音再生も非常に重要です。フロント側の低音と、リア側の低音が再生されると、迫力が増すだけでなく、CINEMA DSP音場プログラムのリアリティが大きく改善されます。

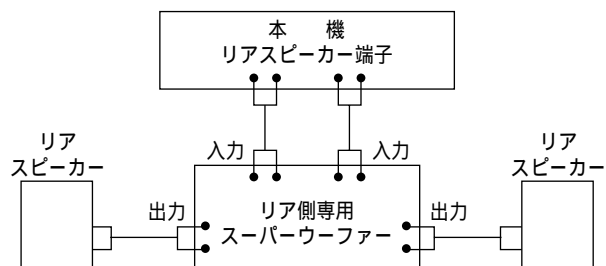
リスニングポジションより後方の、聴きやすい位置に設置します。

接続するときは

リアスピーカー端子とサブ（スーパー）ウーファーを接続し、サブ（スーパー）ウーファーの出力端子とリアスピーカーを接続します。

リア側専用のサブ（スーパー）ウーファーを設置した場合は、「スピーカーモードの設定」の「5. REAR SPEAKER」を“LARGE”に設定してください。

リア側専用のサブ（スーパー）ウーファーを設置しない場合は、リアスピーカーの大きさに合わせて“LARGE”または“SMALL”に設定してください。（25ページ）



接続のしかた

正しい接続のために

接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。

ヤマハCDプレーヤー、テープデッキなどとシステム接続する場合は、各機器と本機の同じ番号（①、②など）のついた端子どうしを接続してください。

接続する機器によって接続方法や端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。ピンジャックの入/出力端子は、信号別に色分けされています。

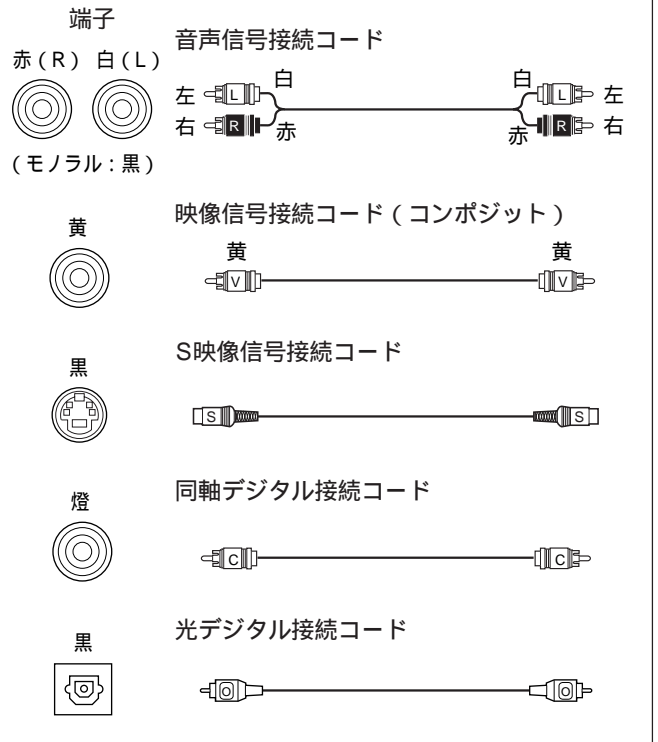
- ・音声信号の左(L)チャンネル：白色
- ・音声信号の右(R)チャンネル：赤色
- ・モノラル信号：黒色
- ・映像信号（コンポジット）：黄色

入/出力端子の接続には、市販の接続コードをご用意ください。

本機がテレビなどに影響を与えるような場合は、本機と他の機器の設置場所を離してください。障害をなくすために、FMのアンテナには、屋外アンテナを使用し、同軸ケーブルで接続することをおすすめします。

接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

接続図では、接続コードを次のように示します。

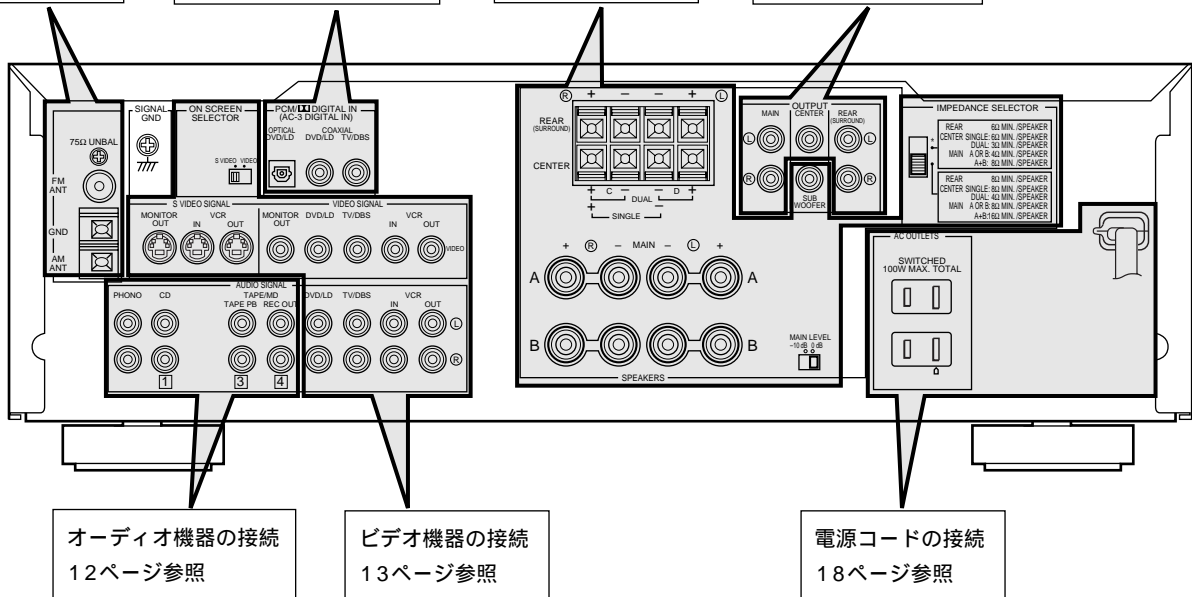


アンテナの接続
10ページ参照

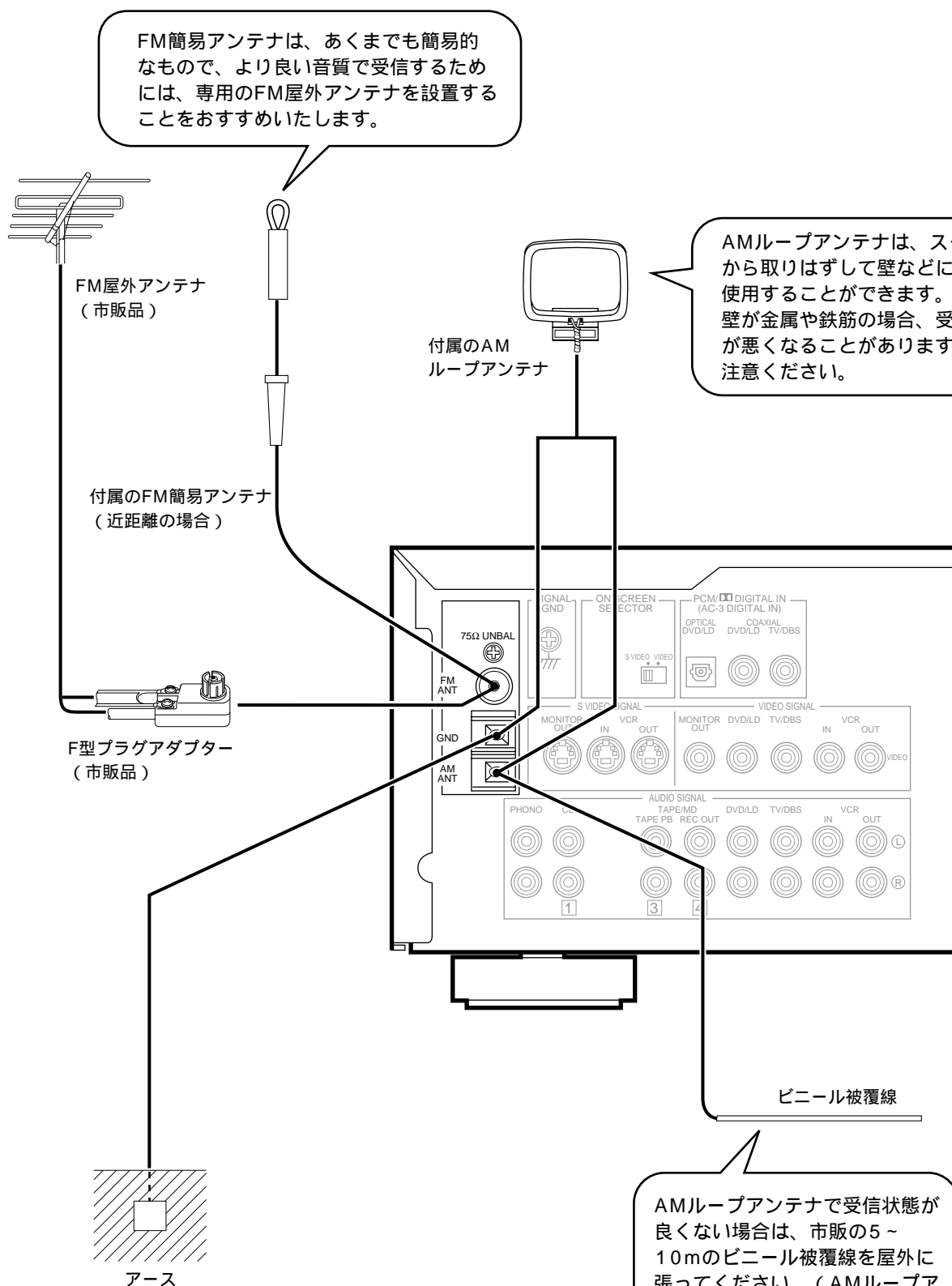
デジタル対応機器の接続
14ページ参照

スピーカーの接続
16ページ参照

他のアンプとの接続
15ページ参照



アンテナの接続



FM簡易アンテナは、あくまでも簡易的なもので、より良い音質で受信するためには、専用のFM屋外アンテナを設置することをおすすめいたします。

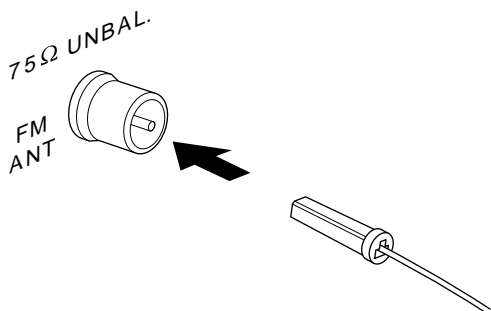
AMループアンテナは、スタンドから取りはずして壁などに掛けて使用することができます。壁が金属や鉄筋の場合、受信感度が悪くなることがありますのでご注意ください。

AMループアンテナで受信状態が良くない場合は、市販の5～10mのビニール被覆線を屋外に張ってください。(AMループアンテナも同時に使用してください。)

FMアンテナの接続

FM簡易アンテナの接続

付属のFM簡易アンテナは、電波状況が非常に良い地域で受信する場合にご使用ください。



FM専用屋外アンテナについて

FM放送を良好に受信するためには、FM専用屋外アンテナを設置することをおすすめします。

また、FM電波は受信する地域の状況（放送局からの距離、ビルや山のかげなど）によって、良好な受信ができにくい場合があります。ご使用になる地域の状況に合ったアンテナを設置してください。

FM専用屋外アンテナは、自動車のイグニッションノイズの影響を受けないよう、道路から離れたなるべく高いところに設置してください。

FM専用屋外アンテナの接続

アンテナの接続には75Ω同軸ケーブルをご使用ください。

また、アンテナと本機との間隔が長い場合は、ケーブル伝送中の電波減衰が少ない5C2Vケーブルの使用をおすすめします。

FM屋外アンテナを接続したときは、付属のFM専用簡易アンテナは接続しないでください。

電波状況が非常に良い地域では

TVのVHFアンテナを本機のFM用アンテナとして使用することができます。アンテナをTV受像機と本機で共用する場合は、市販の分配器をご使用ください。

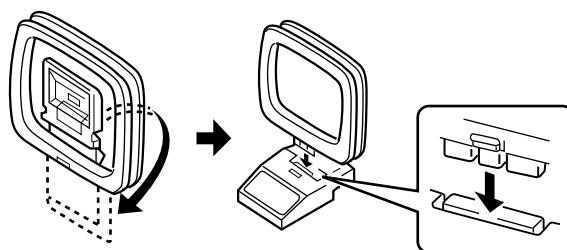
詳細は分配器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

近くに放送局があるような強電界地域では、多素子のアンテナやブースター（増幅器）を使うと、電波が強すぎて、かえって良好な受信ができなくなることがあります。

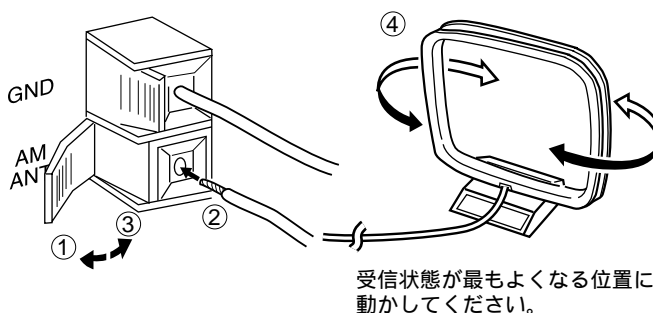
AMループアンテナの組立と接続

組み立て



付属のAMループアンテナをAM ANT端子に接続します。

- ① AM ANT端子とGND端子のレバーを倒します。
- ② AMループアンテナのコードをAM ANT端子とGND端子に差し込みます。（コードに極性はありません。）
- ③ レバーをロックするまで引き上げます。
- ④ アンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向に向けます。



受信状態が最もよくなる位置に動かしてください。

ご注意

AMループアンテナは本機から離して設置してください。AMループアンテナで良好な受信ができない場合は、AM ANT端子に5mから10mのビニール被覆線を接続し、窓際から屋外に張ってください。（このときAMループアンテナも必ず接続しておいてください。）

アースについて

通常受信では必要ありませんが、雑音防止と安全のために地中アースを取ることをおすすめします。

アースは市販のアース棒か銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

GND端子に2本以上のコードを接続する場合は、よじって1本にまとめてください。

ご注意

アースを水道管やガス管に取り付けることは、感電や火災などの危険防止のため絶対おやめください。

オーディオ機器の接続

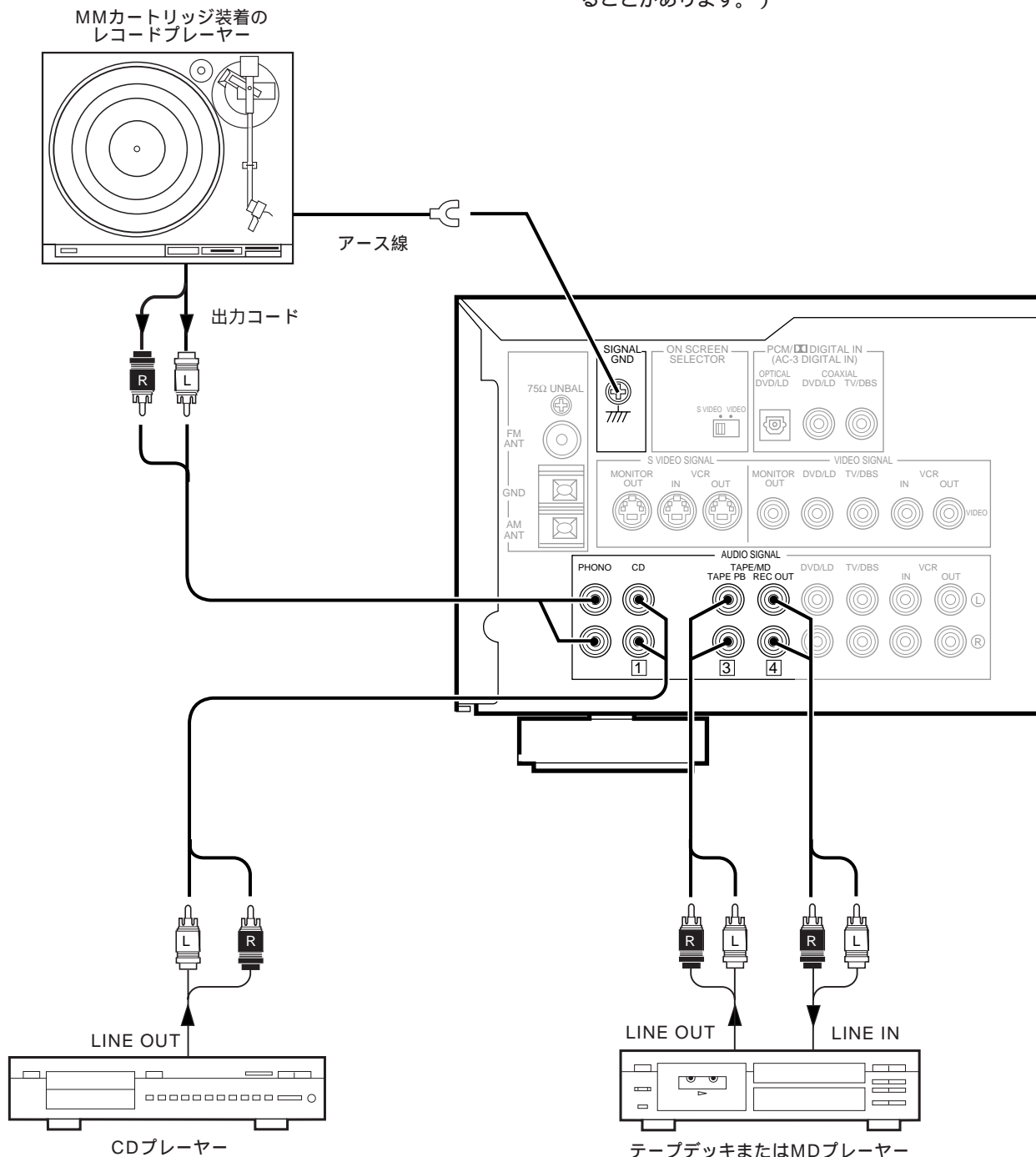
右チャンネル (R)、左チャンネル (L)、入力 (IN)、出力 (OUT) を確認して正しく接続してください。

PHONO端子について

MMカートリッジまたは高出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続します。
低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランスあるいは、MCヘッドアンプが別途必要になります。

ご注意

SIGNAL GND端子は安全アース端子ではありません。アナログレコードプレーヤーなどを接続した場合の雑音を低減するものです。(レコードプレーヤーによっては、まれにアース線をSIGNAL GND端子に接続しない方がハムノイズが減少することがあります。)



ビデオ機器の接続

エス ビデオ

S VIDEO端子について

接続するVCR（ビデオデッキ）にSビデオ端子がある場合は、ビデオデッキのS入/出力端子と本機のS VIDEO SIGNAL VCR OUT/IN端子を接続します。また接続するモニターにS入力端子がある場合は、本機のS VIDEO SIGNAL MONITOR OUTと接続します。

本機では、S VIDEO端子とピンジャックのVIDEO端子間は独立しています。ピンジャックから入った信号はピンジャックに出力され、S VIDEO端子から入った信号はS VIDEO端子に出力されます。

オン スクリーン セレクター

ON SCREEN SELECTORの設定について

本機は、操作内容などをモニターに表示するオンスクリーン機能があります。

操作の前にON SCREEN SELECTORを再生するソースに合わせて切り換えてください。

VIDEO側：ピンジャック接続した機器を再生するとき。
通常はこの位置にしておきます。

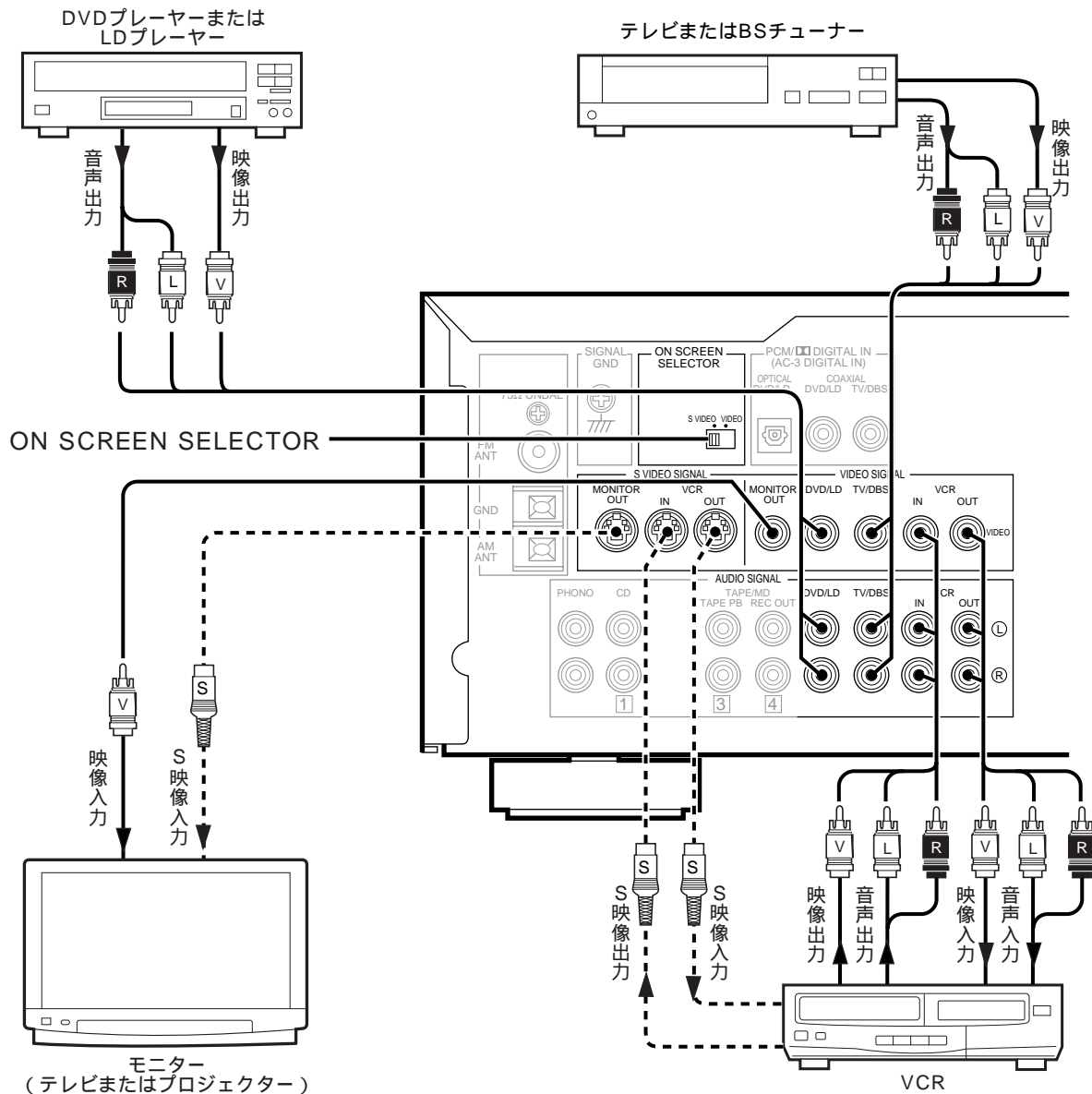
S VIDEO側：Sビデオ接続した機器を再生するとき。

ドルビーデジタル（AC-3）やPCM音声の、デジタル音声出力のある機器を接続するときは、14ページもご覧ください。

ご注意

本機は、テレビ画面の自動ワイド識別信号には対応していません。

モニターとしてワイドテレビを接続したときに、画面がワイドにならない場合は、ワイドテレビ側の画面モードの設定を「ワイド」に切り換えてください。



デジタル対応機器の接続

本機はドルビーデジタル (AC-3) やテレビ/BSチューナーなどのデジタル音声信号をダイレクトに入力できるデジタル音声入力端子 (COAXIAL/OPTICAL : DVD/LD、COAXIAL : TV/DBS) を装備しています。(デジタル端子はPCM/ドルビーデジタル (AC-3) 兼用です。)

ドルビーデジタル (AC-3) 対応のDVDプレーヤー、LDプレーヤー、テレビ/BSチューナーなどのデジタル音声出力は、本機のPCM/DIGITAL IN端子に接続します。

デジタル入力したドルビーデジタル (AC-3) 信号は搭載したドルビーデジタルデコーダーによりドルビーデジタル再生します。

COAXIAL端子に接続する場合はピンプラグコード (市販) を、OPTICAL端子に接続する場合は光デジタル接続ケーブル (市販) を使用してください。

COAXIAL/OPTICAL端子の双方に接続する必要はありません。どちらか一方の接続だけでも使用することができます。

ご注意

COAXIAL、OPTICALの両端子から同時にデジタル信号が入力された場合は、OPTICAL端子からの入力が優先します。

デジタルとアナログの両端子から同時に入力した場合、再生信号の優先順位を設定することができます。

29ページおよび47ページをご覧ください。

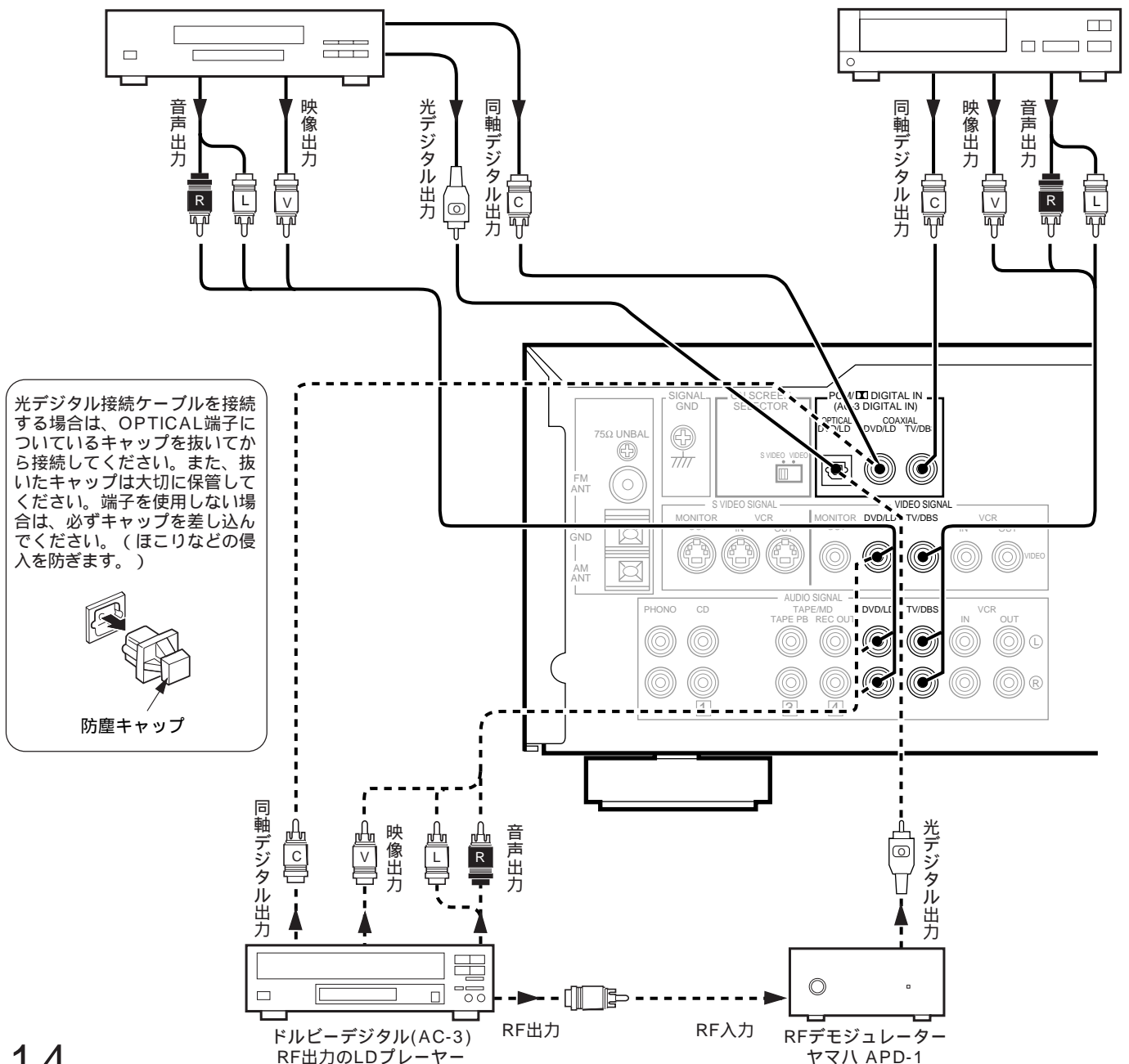
本機のOPTICAL端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光デジタル接続ケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。

本機にLDプレーヤーなどのドルビーデジタル (AC-3) RF出力を直接接続することはできません。そのような機器を接続するときはヤマハのAPD-1 (別売) などの、デモジュレーターユニットを使用してください。

詳細はデモジュレーターの取扱説明書をご覧ください。

ドルビーデジタル(AC-3)デジタル出力のDVD/LDプレーヤー

テレビまたはBSチューナー



他のアンプとの接続

メイン/センター/リアスピーカー出力のパワーアップを図りたいときや、お手持ちのアンプを使用したいとき、本機のOUTPUT端子に外部パワーアンプ(プリメインアンプ)を接続してください。

メイン アウトプット MAIN OUTPUT 端子

メインチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプ(プリメインアンプ)と接続して、メインスピーカーを駆動したい場合に使用します。

センター アウトプット CENTER OUTPUT 端子

センターチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプ(プリメインアンプ)と接続して、センタースピーカーを駆動したい場合に使用します。

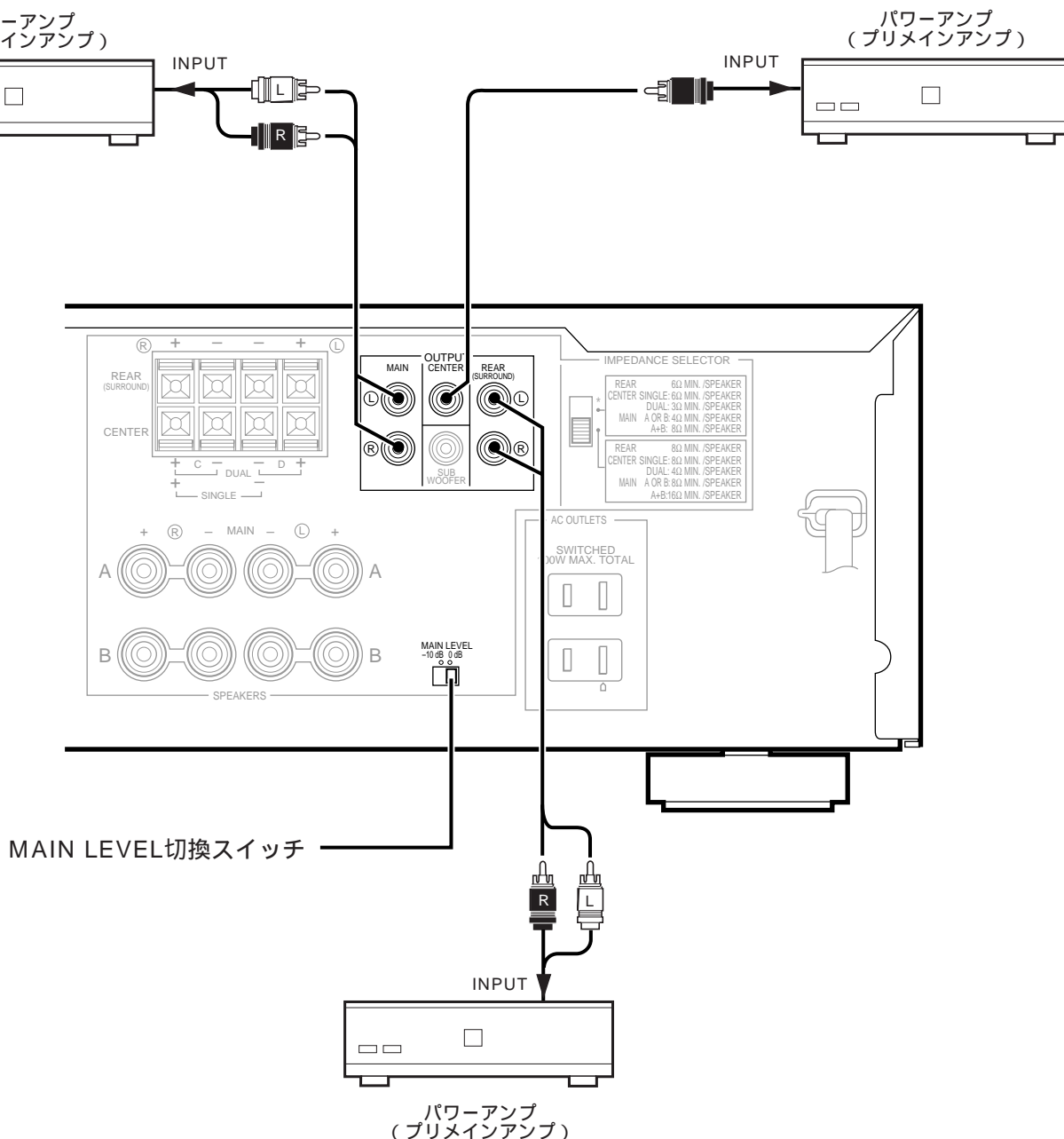
リア サラウンド アウトプット REAR (SURROUND) OUTPUT 端子

リアチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプ(プリメインアンプ)と接続して、リアスピーカーを駆動したい場合に使用します。

メイン レベル MAIN LEVEL 切換スイッチ

メインスピーカーの出力レベルを切り換えるスイッチです。メインスピーカーとリア、センタースピーカーとの音量バランスがとれないときに切り換えます。(28ページ)

通常は0dB側にしておきます。



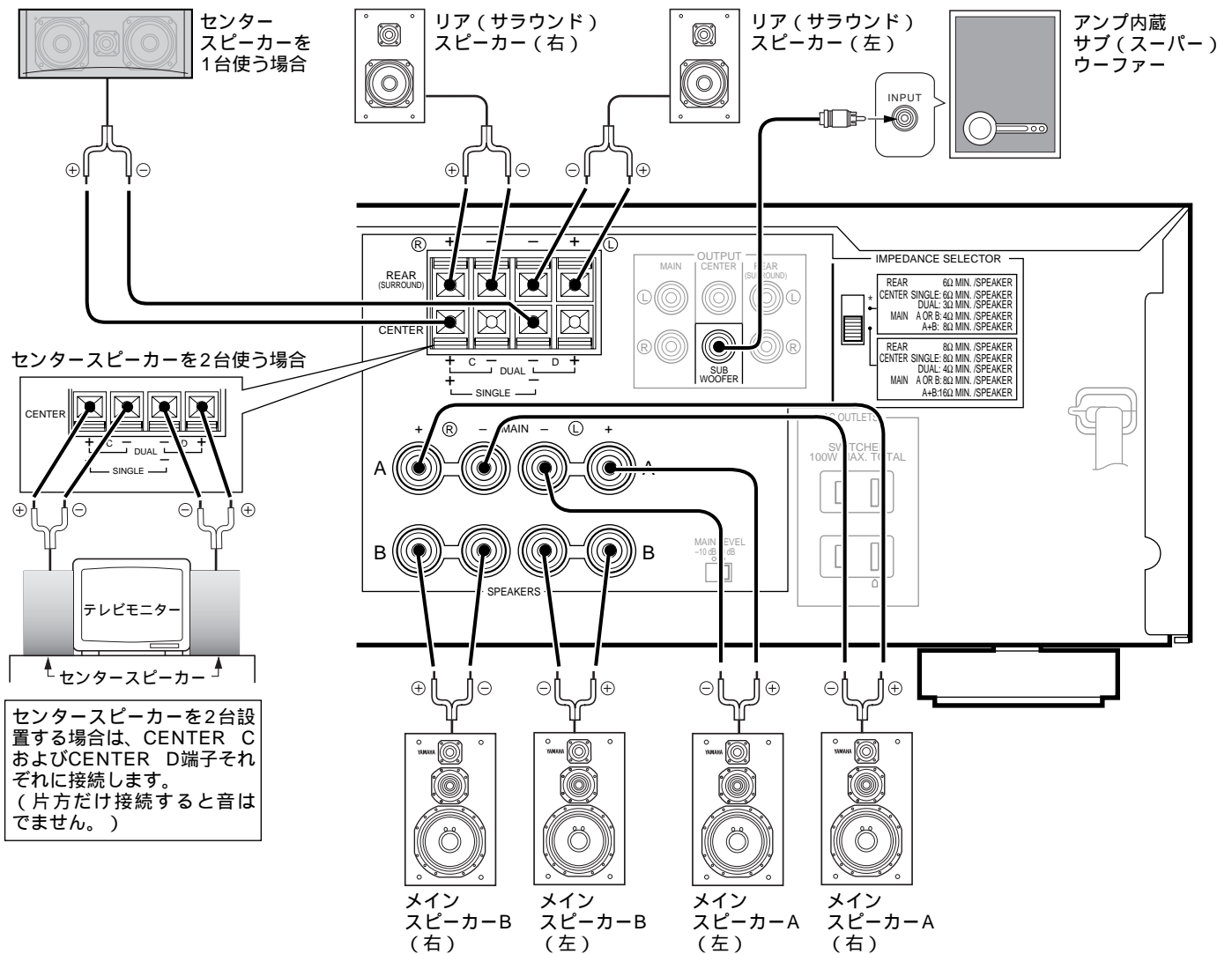
スピーカーの接続

接続する際、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、“+”（赤）、“-”（黒）を確認して正しく接続してください。極性（+、-）を間違えて接続した場合、不自然な再生音となることがあります。

スピーカーコードの接続は、ショートしないように注意してください。ショートした状態で電源を入れると、保護回路が働き電源が切れる場合があります。このような場合は、電源コードを抜いてから、ショートしている箇所の接続をやり直してください。

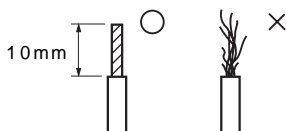
ご注意

スピーカーの接続をする前に、IMPEDANCE SELECTOR を使用するスピーカーシステムのインピーダンスに応じて必ず切り換えてください。詳細は17ページの「スピーカーのインピーダンスについて」をご覧ください。

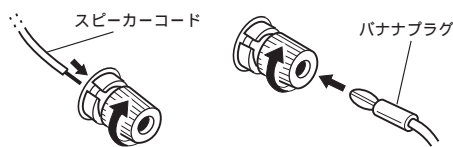


スピーカーコードの接続

スピーカーコードの先端の絶縁部を10mm位はがし、しっかりとねじります。芯線がバラけているとショートしやすいのでご注意ください。

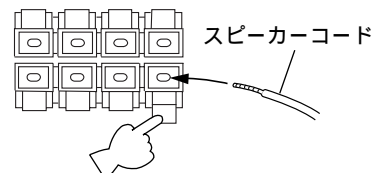


スピーカー端子の穴に差し込み、右回りにしっかりと締めます。市販のパナナプラグを使用する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。

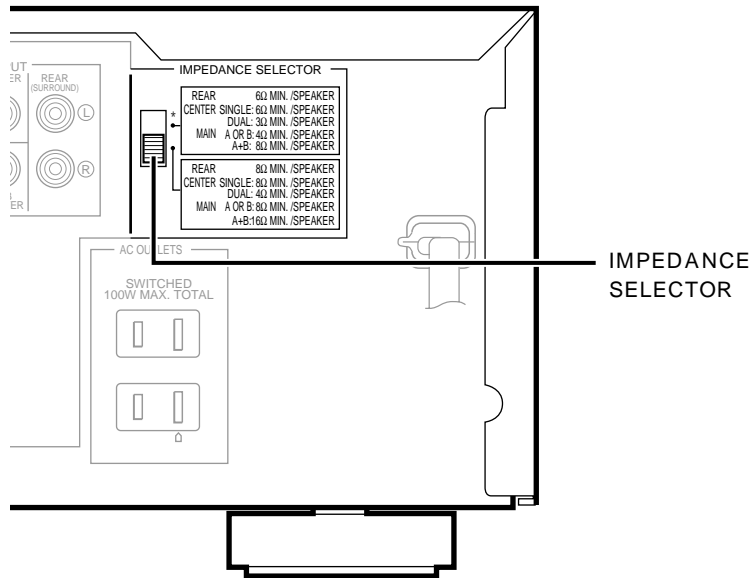


センター/リアスピーカー

レバーを押して、スピーカーコードの芯線をスピーカー端子の穴に差し込み、レバーを戻します。コードを軽く引っ張り確実に接続されていることを確認してください。



スピーカーのインピーダンスについて

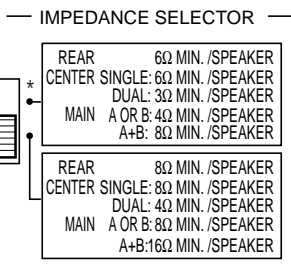


ご使用の前に、お使いになるスピーカーシステムのインピーダンスに応じてリアパネルのIMPEDANCE SELECTORを切り換えます。

使用するスピーカーのインピーダンス()

上側にセットする場合

リア	6 以上/ch
センター	SINGLE : 6 以上 DUAL : 3 以上
メイン	A OR B : 4 以上/ch A + B : 8 以上/ch



下側にセットする場合

リア	8 以上/ch
センター	SINGLE : 8 以上 DUAL : 4 以上
メイン	A OR B : 8 以上/ch A + B : 16 以上/ch

切り換えの基準

使用するスピーカーのインピーダンス()と同じか、それよりも低い表示側にセットします。

使用するスピーカーのなかで一番低いインピーダンス()に合わせて切り換えます。

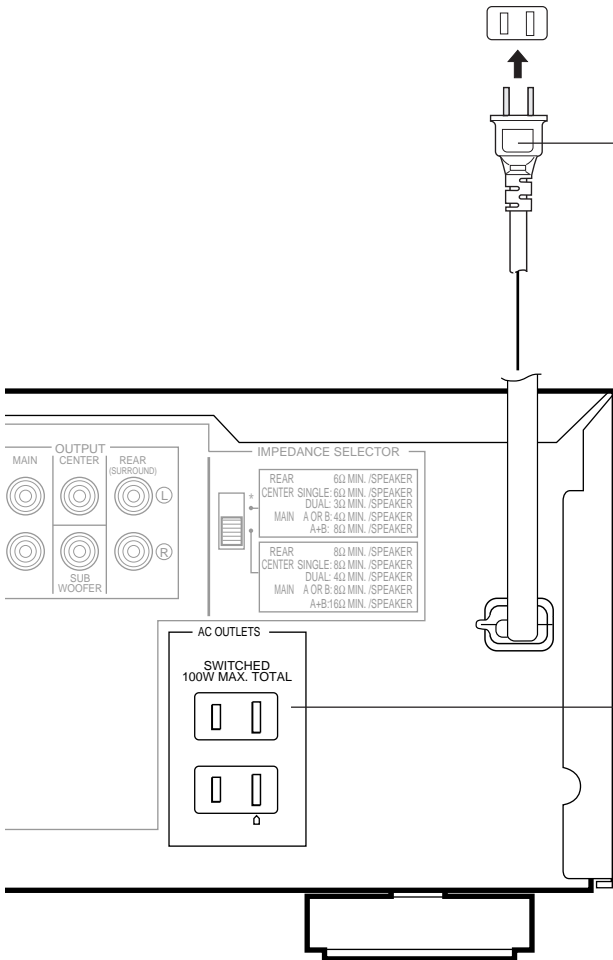
例：スピーカーシステムがメイン8、センター8、リア6の場合、リアの6に合わせてIMPEDANCE SELECTORを上側に切り換えます。

ご注意

IMPEDANCE SELECTORの切り換えは、必ず電源を切ってから行ってください。電源が入ったまま行くと、故障の原因となります。

また、IMPEDANCE SELECTORは、正しく設定しないと本機やスピーカーの故障の原因となりますので、ご注意ください。

電源コードの接続



電源コード

本機の消費電力は270W（インピーダンスセクターが下側の場合）です。家庭用AC100V 50/60HzのACコンセントにプラグを接続してください。

本機の電源コードには極性が表示されています。（下記参照）

ご注意

本機は電源を切っても、電源プラグがACコンセントに差し込まれていると、メモリー保持のため微弱な電力を消費します。（スタンバイ状態）。したがって長期間本機をご使用にならないときは、電源プラグをACコンセントから抜いてください。

アウトレット
AC OUTLETS (電源供給コンセント)

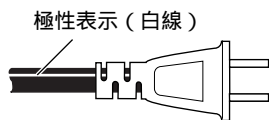
本機のPOWERスイッチと連動しています。2つのAC OUTLETを合計で、消費電力100Wまでのオーディオ機器を接続できます。

リモコンのマクロ機能（32ページ）を働かせたい機器のプラグは、本機のコンセントに接続してください。

本コンセントの長い方の穴（△）が電源コードの極性とつながっています。接続する機器に極性表示がされている場合は、極性を合わせる目安にしてください。

接続が終了したら、配線が正しいか、もう一度確認してください。

電源プラグと極性表示について



すべての接続が終わってから、電源プラグをコンセントに差し込んでください。本機の電源コードには、電源トランスの巻始め側を極性表示（白線）されています。プラグを差し替えると音質が変わる場合は、好みの極性でご使用ください。

リモコンの準備

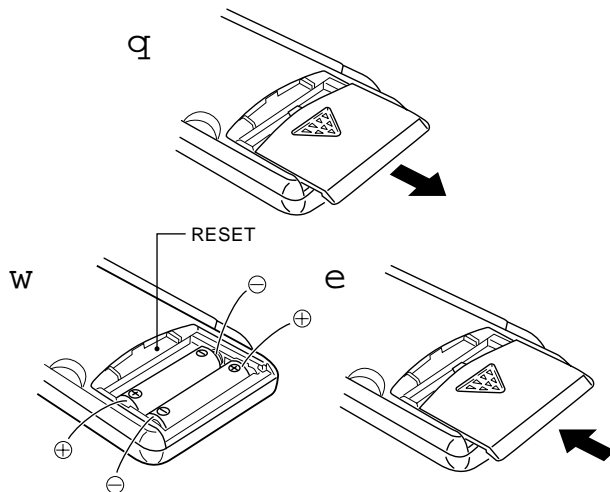
乾電池の入れかた

- ① 裏ぶたをはずす。
- ② 単3乾電池（2本）を入れる
- ③ 裏ぶたを閉める

リセット

RESETボタンについて

電池ケース内にあるRESETボタンは、乾電池を交換したあとや、リモコンが動かなくなった（フリーズ）ときに押します。（メモリーしている内容は消えません。ただし長時間電池を外していた場合は記憶が消えることがあります。）



乾電池のご注意

乾電池は誤った使いかたをすると、液もれが起きたり破れつすることがありますので、次の点に特に注意ください。

乾電池のプラス⊕とマイナス⊖の向きを電池ケースの表示通りに正しく入れてください。

新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。

アルカリ電池とマンガン電池など、種類のちがう乾電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能や電圧の異なるものがあります。

乾電池が使えなくなったり、リモコンを長い間使わないときは、乾電池を全部取り出してください。

この場合、ラーニングした内容は消えます。

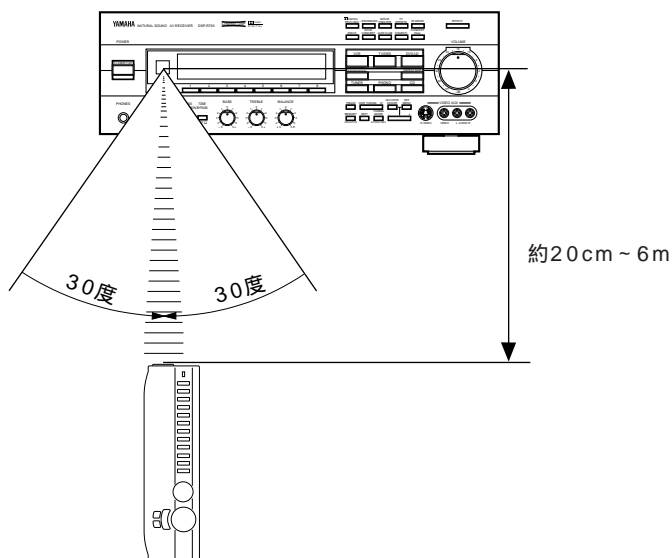
充電式の乾電池はご使用になれません。

液もれが起こったときは、ケースの中についた液をよくふき取ってください。

乾電池の交換時期は

リモコン操作できる距離が短くなりましたら、乾電池を2本とも交換してください。

リモコンの使用範囲



リモコン取扱上の注意

本体のリモコン受光窓とリモコンの間に障害物があると、操作できないことがあります。

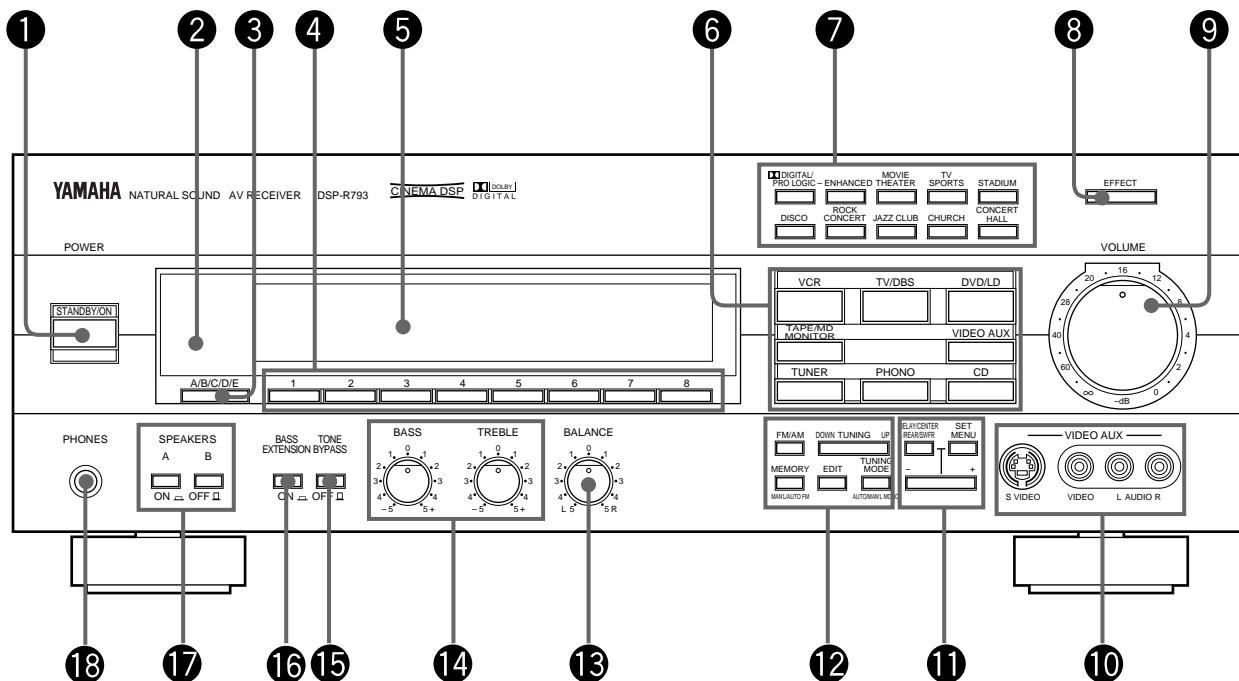
リモコンには衝撃を与えないでください。また、水にぬらしたり、湿度の高いところには置かないでください。

受光窓に直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯など）が当たっているとリモコンが動きにくくなります。照明または本体の向きを変えてください。

他の機器のリモコンを同時に使うと、操作できないことがあります。

各部の名称とはたらき

フロントパネル



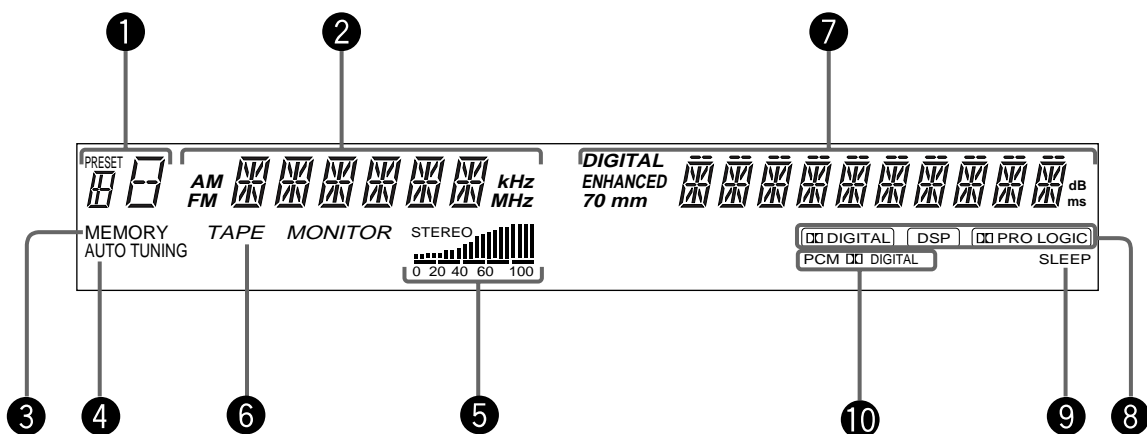
- 1** パワー POWERスイッチ
 本機の電源をオン/オフします。
 電源を入れるときは、ボリュームを絞っておいてください。
 電源が入っても、数秒間は本機のミュート機能の働きにより音は出ません。
- 2** リモコン受光窓
- 3** A/B/C/D/Eキー
 FM/AM放送を聴くとき、プリセットグループ(A/B/C/D/E)を選びます。
- 4** プリセット局番号キー
 FM/AM放送を聴くとき、プリセット局の番号を選びます。
- 5** ディスプレイ
 入力ソースや設定状態を表示します。
- 6** インプットセレクター
 再生したいソースを選びます。
- 7** 音場プログラムキー
 音場プログラムを選びます。
- 8** エフェクト EFFECTキー
 音場プログラムの効果をオン/オフします。
 オフにすると通常のステレオ再生になります。(センタースピーカーとリアスピーカーからは音は出ません。)
 (ドルビーデジタル(AC-3)入力時はすべてのチャンネルをL、Rチャンネルに合成します。)
 音場プログラムを使うときは、もう一度EFFECTキーを押します。
- 9** ボリューム VOLUMEコントロール
 スピーカーシステム全体の音量を調節します。
 右に回すほど音量が大きくなります。
- 10** ビデオ エーユーエックス VIDEO/AUX入力端子
 ビデオムービーなど、ビデオ機器を接続します。
エスビデオ S-VIDEO: Sビデオ信号の入力端子です。
ビデオ VIDEO: ビデオ信号の入力端子です。
オーディオ AUDIO: オーディオ(音声)信号の入力端子です。
 音声信号がモノラルの場合は、L、Rどちらかの端子に接続してください。
- 11** セットメニュー パラメーターコントロールキー
 SET MENU: セットメニューを呼び出します。
ディレイ DELAY/CENTER/REAR/SWFR: センター ディレイタイムおよび各スピーカーのレベルを調整するとき、調整する項目を呼び出します。
 +/-: 選んだセットメニューの内容を設定するときや、リア サブウーファー ディレイタイムおよび各スピーカーのレベルを調整します。
- 12** チューナーコントロールキー
 FM/AM放送を聴くときに使います。(38ページ)
 FM/AM: AM放送、FM放送を切り換えます。
チューニング アップ TUNING UP/DOWN: ダウン 選局します。
メモリー MEMORY: 受信したAM/FM局をプリセットするときや、FM局をオートプリセットするときを押します。
エディット EDIT: チューニング プリセット局を入れかえるときに押します。
モード TUNING MODE: マニュアルチューニング(手動選局)またはオートチューニング(自動選局)を選びます。

- ⑬ ^{バランス} BALANCEコントロール
メインスピーカーL、Rの音量バランスを調節します。L側に回すほどR側の音量が小さくなり、R側に回すほどL側の音量が小さくなります。通常は0の位置にしておきます。
- ⑭ ^{バス} ^{トレブル} トーンコントロール (BASS/TREBLE)
メインスピーカーL、Rの低音域 (BASS) / 高音域 (TREBLE) を調節します。右に回すほどブーストされ、左に回すほどカットされます。0の位置でフラットな特性になります。
トーンコントロールは、メインL、Rスピーカーだけに働き、センターおよびリアチャンネルには働きません。
- ⑮ ^{トーン} ^{バイパス} TONE BYPASSスイッチ
スイッチを押してONにすると、音声信号はトーンコントロール回路をバイパスしてフラットな特性で出力されます。

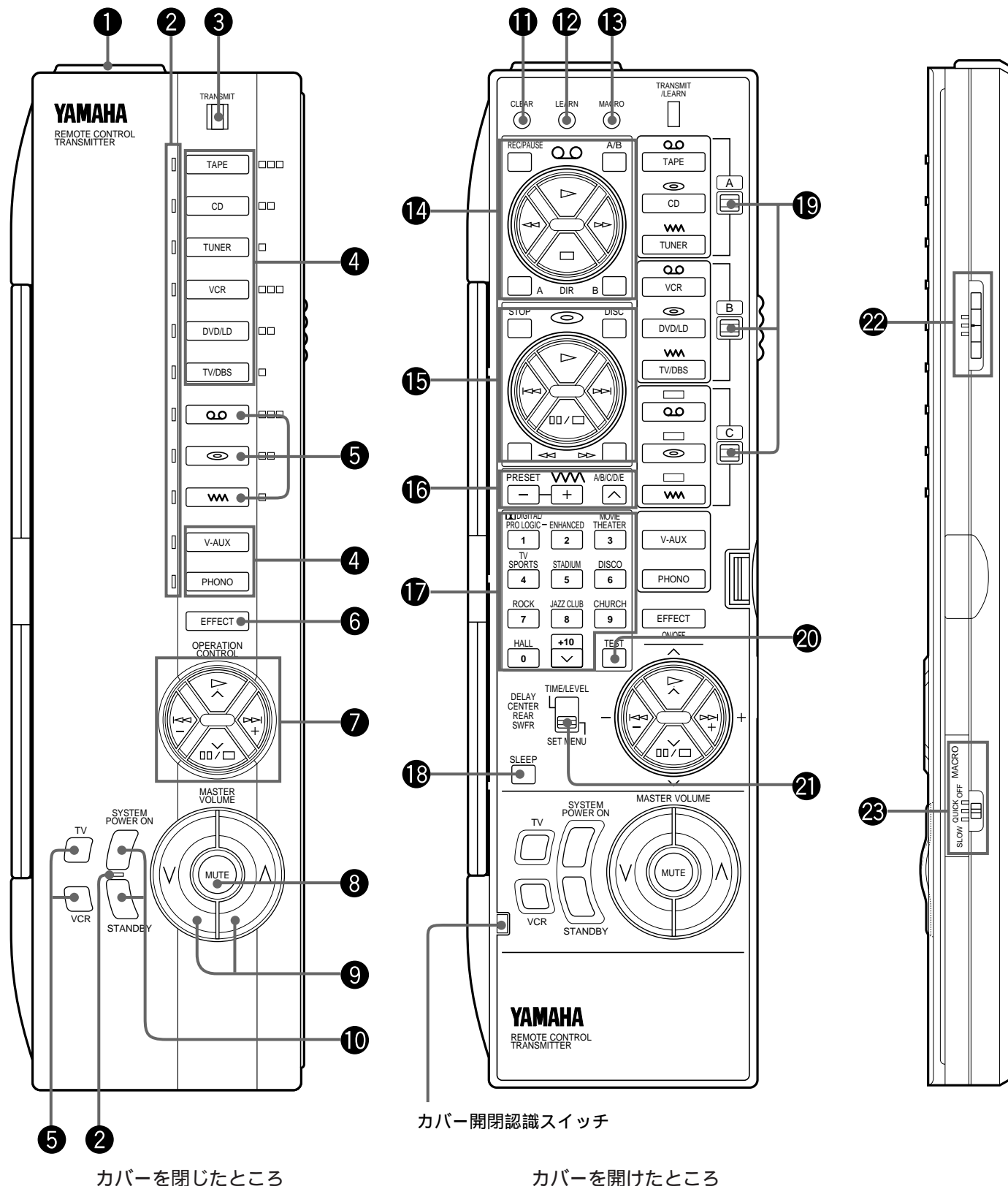
- ⑯ ^{バス} ^{エクステンション} BASS EXTENSIONスイッチ
スイッチを押してONにすると、低音域を強調することができます。
- ⑰ ^{スピーカーズ} SPEAKERS A/Bスイッチ
駆動するメインスピーカーシステムA、Bを選びます。押しON (■) にしたメインスピーカーシステムから音が出ます。
A、B両方のスイッチを押してONにすると、A、B両方のメインスピーカーシステムから音が出ます。
- ⑱ ^{ホーンズ} PHONES端子
ヘッドホンを接続します。メインチャンネルの音出力されます。ヘッドホンだけで聴くときは、SPEAKERS スイッチ (A・B) をOFFにし、EFFECTもOFFにしてください。

ディスプレイ

- ① プリセットグループ、プリセット局番号を表示します。
 - ② バンド、周波数および入力ソース名を表示します。
 - ③ プリセット時に点灯させます。
 - ④ オート選局時に点灯させます。
 - ⑤ 受信電波の強さを示します。ステレオ受信時は「STEREO」が点灯します。
 - ⑥ テープモニター時に点灯します。
 - ⑦ プログラム名や設定値を表示します。
 - ⑧ プロセッシングインジケータ (34ページ)
エフェクトオン時に、入力信号に従って点灯します。
 - ⑨ スリープタイマー設定時に点灯します。
 - ⑩ デジタル入力信号の種類を表示します。
- * ① ③ ④ ⑤ のインジケータはチューナー専用です。



リモコン

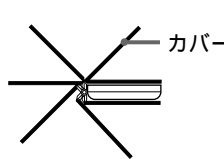


- ① 送受信窓
リモコンのコントロール信号を送受信します。
- ② マクロマーク
マクロ機能のあるキーを示します。
- ③ TRANSMIT/LEARNインジケータ
トランスミット ラーン
リモコン操作時に点灯します。
また、ラーニング中、消去中は点滅/点灯します。
- ④ インプットセレクター
本機の入力を切り換えます。
- ⑤ 空きキー
ラーニング後に使うことができます。
- ⑥ EFFECTキー
エフェクト
音場効果をオン/オフします。
- ⑦ OPERATION CONTROLキー
オペレーション コントロール
カバーを閉じたとき
インプットセレクターで選んだ機器をコントロールします。
ヤマハ以外の機器は、ラーニング後にコントロールでき
ます。

カバーを開けたとき：タイム/レベル セットメニューコン
トロールキー
^/∨/+/-キーとして働きます。
ディレイタイム/スピーカーレベルまたはセットメニューを
選び、設定するときに使います。
- ⑧ MUTEキー
ミュート
押すと音量が下がります。もう一度押すと、もとの音量に戻
ります。
- ⑨ MASTER VOLUMEキー
マスター ボリューム
^キーを押すとスピーカーシステム全体の音量が大きくな
り、∨キーを押すと小さくなります。
- ⑩ SYSTEM POWER ON/STANDBYキー
システム パワー オン スタンバイ
本体の電源を入れるときはSYSTEM POWER ONキーを、
電源を切るときはSTANDBYキーを押します。
- ⑪ CLEARボタン
クリア
ラーニング内容を消去するときに押します。
- ⑫ LEARNボタン
ラーン
ラーニングさせるときに押します。
- ⑬ MACROボタン
マクロ
マクロ設定するときに押します。
- ⑭ ○○ ゾーンコントロールキー
テープデッキ、ビデオデッキをコントロールします。

- ⑮ ○ ゾーンコントロールキー
CDプレーヤー、DVDプレーヤー、LDプレーヤーをコント
ロールします。
- ⑯ WWM ゾーンコントロールキー
チューナー、テレビチューナー、BSチューナーをコント
ロールします。
- ⑰ 音場プログラムキー
音場プログラムを選びます。
+10キーは空きキーです。
- ⑱ SLEEPキー
スリープ
スリープタイマーを設定します。
- ⑲ エリアインジケータ
A/B/C切換スイッチ ⑳ で選ばれたエリアが赤く表示されま
す。
- ㉑ TESTキー
テスト
押すとテストトーンを出力します。
スピーカーレベルを調整するときに使います。
- ㉒ TIME/LEVEL SET MENU 切換スイッチ
タイム レベル セット メニュー
ディレイタイム/レベルまたはセットメニューを選択する
ときに切り換えます。
- ㉓ A/B/C切換スイッチ
エリアA、B、Cを切り換えます。
- ㉔ MACROスイッチ
マクロ クイック スロー
マクロ機能を使うときに"QUICK" または"SLOW"の位置に
します。マクロ機能を使わないときは"OFF"の位置にし
ます。(32ページ)

リモコンの蓄光機能について
本リモコンの白いキーには蓄光機能があり、暗いところでは
キーが光ります。
キーが光らなくなったときは、リモコンを明るいところに置
いて蓄光させてください。



カバーは360度回転します。

ご注意

カバーを閉めるときは、最初に
サイド側のヒンジをカチッと音
がするまで押し込んでから、カ
バーを閉めます。

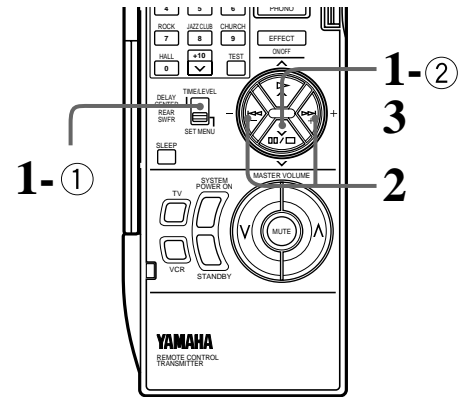
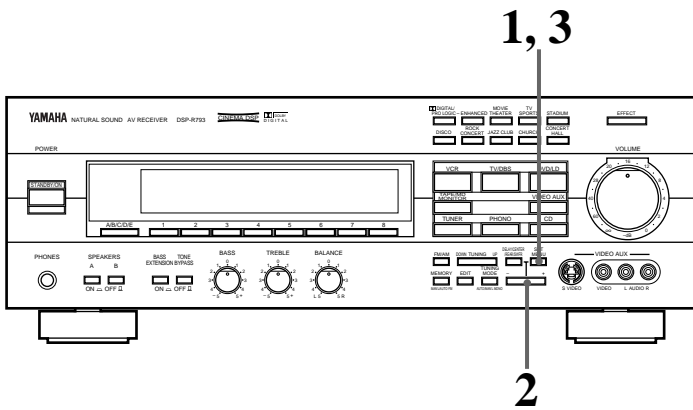
スピーカーモードの設定

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、4種類のスピーカーモード（センタースピーカー、リアスピーカー、メインスピーカー、LFE/バスアウト）を設定します。

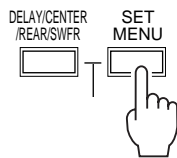
スピーカーモードの設定はセットメニューを呼び出して行います。

設定はモニター画面を見ながら行うことをおすすめします。本体のディスプレイ表示でも設定できますが、モニター画面の方が視覚的にわかりやすく設定できます。

スピーカーモードの設定のしかた



SET MENUスイッチを繰り返し押し続けて、セットメニュー内の「スピーカー設定モード」を表示させます。



リモコンで操作するときは

- ① カバーを開け、TIME/LEVEL SET MENUスイッチをSET MENU側にします。
- ② タイム/レベルセットメニューコントロールキーの^キーまたはvキーを繰り返し押し続けて、スピーカー設定モードを表示させます。

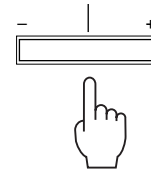
1

4～7が「スピーカー設定モード」です。



設定する項目を表示させ、本体またはリモコンの+キーまたは-キーで設定します。

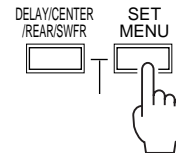
2



設定が終わるときは、SET MENUスイッチを繰り返し押し続けてセットメニュー表示を消します。

DELAY/CENTER/REAR/SWFRスイッチを押すと「スピーカー設定モード」は解除されます。

3

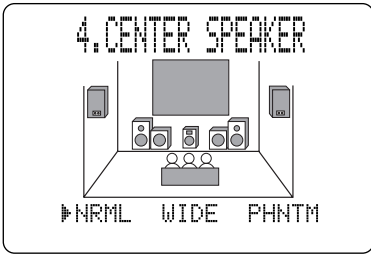


リモコンで操作するときは

タイム/レベルセットメニューコントロールキーの^キーまたはvキーを繰り返し押し続けます。

設定内容について

4. CENTER SPEAKER (センタースピーカーモード) 初期設定 : NRML

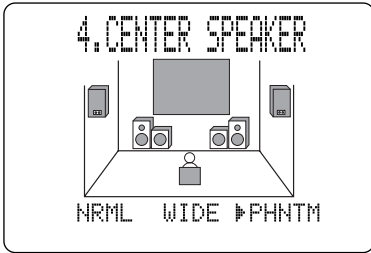
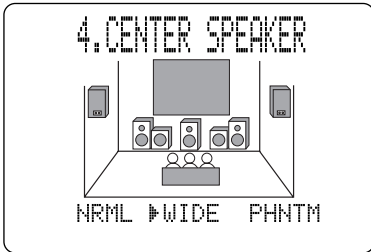


使用するセンタースピーカーに合わせて、モード (NRML/WIDE/PHNTM) を選びます。

^{ノーマル}
NRML (NORMAL) センタースピーカーにメインスピーカーより小型のスピーカーを使用するときのモードです。
センターチャンネルの90Hz以上の信号をセンタースピーカーに出力し、90Hz以下の低域信号はメインL、Rスピーカーに振り分けられます。

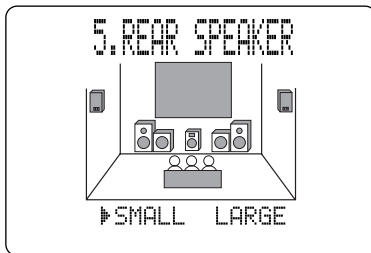
^{ワイド}
WIDE センタースピーカーにメインスピーカーと同じくらいの大きさのスピーカーを使用するときのモードです。
センターチャンネルの全帯域を、そのままセンタースピーカーに出力します。

^{ファントム}
PHNTM (PHANTOM) .. センタースピーカーを使用しないときのモードです。
センターチャンネル信号は、メインのL、Rスピーカーに同じレベルで振り分けられます。



モニター画面には、センタースピーカーモードの状態がイラストで表示されます。
NRML時センタースピーカーは小型になります (観客3人)。PHNTM時はセンタースピーカーはなくなり、観客も1人になります。センタースピーカーを使用することでリスニングポジションが拡大し、より多くの観客で楽しむことを表しています。

5. REAR SPEAKER (リアスピーカーモード) 初期設定 : SMALL

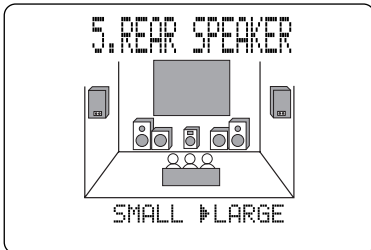


使用するリアスピーカーに合わせて、モード (SMALL/LARGE) を選びます。

^{スモール}
SMALL リアスピーカーに小型のスピーカーを使用するときのモードです。

リアチャンネル (サラウンド) 信号の90Hz以下の低音域はBASS OUTで選んだスピーカーに出力されます。(26ページ)

^{ラージ}
LARGE リアスピーカーに大型のスピーカーを使用したり、リアスピーカーにサブ (スーパー) ウーファーを接続して使用するとき (8ページ) のモードです。

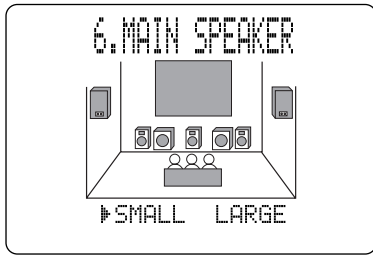


リアチャンネル信号の全帯域を、そのままリアスピーカーに出力します。

モニター画面には、リアスピーカーモードの状態がイラスト表示されます。SMALL時、リアスピーカーは小型になり、LARGE時、リアスピーカーは大型になります。

スピーカーモードの設定

6. MAIN SPEAKER (メインスピーカーモード) 初期設定 : LARGE

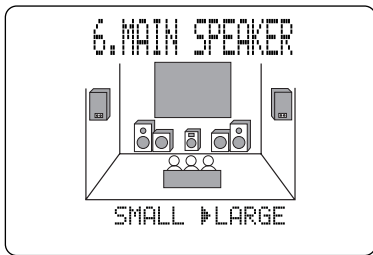


使用するメインスピーカーに合わせて、モード (SMALL/LARGE) を設定します。

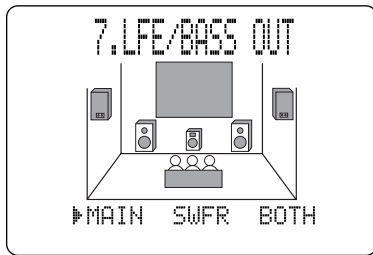
- スモール
SMALL メインスピーカーに小型のスピーカーを使用するときのモードです。
メインL、Rチャンネルの90Hz以上の信号はメインL、Rチャンネルに出力され、90Hz以下の低音域はBASS OUT (下記7参照) で選んだスピーカーに出力されます。
- ラージ
LARGE メインスピーカーに大型のスピーカーを使用するときのモードです。
メインL、Rチャンネル信号の全帯域を、そのままメインL、Rスピーカーに出力します。

ご注意

“SMALL” 設定時にも、LFE/BASS OUTの設定が“MAIN” の場合はメインL、Rチャンネル信号の90Hz以下の信号はメインに出力されます。



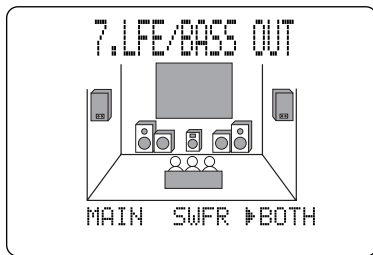
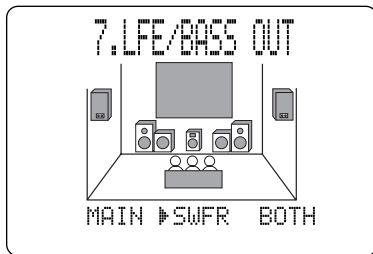
7. LFE/BASS OUT (LFE / バスアウトモード) 初期設定 : SWFR



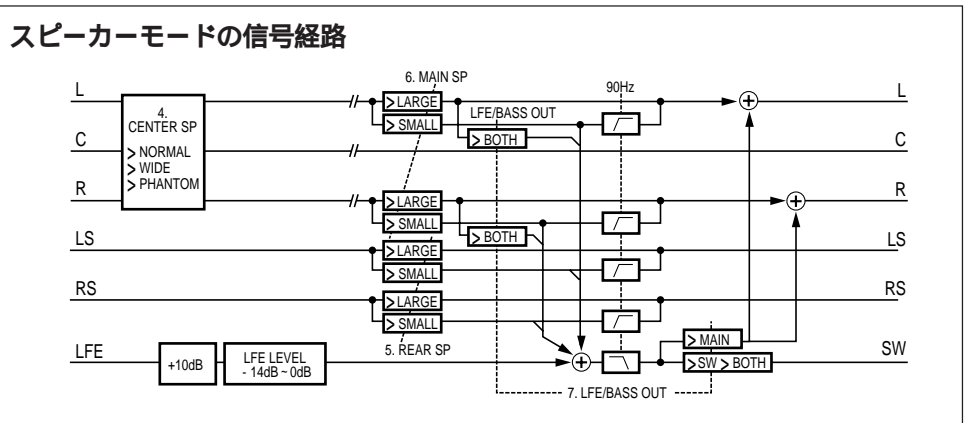
LFE/BASS信号を出力するスピーカーを設定します。

(LFE信号 : Low Frequency Effect信号、ドルビーデジタル (AC-3) 動作時に出力される低音域効果音)

- メイン
MAIN サブ (スーパー) ウーファーを使用しないときに選ぶモードです。
LFEと、前記4、5、6の設定により他チャンネルの90Hz以下の低音域がメインL、Rスピーカーに出力されます。
- サブウーファー
SWFR (SUB WOOFER) サブ (スーパー) ウーファーを使用するときを選ぶモードです。
LFEと、前記4、5、6の設定により他チャンネルの90Hz以下の低音域がSUB WOOFERに出力されます。
- ボス
BOTH サブ (スーパー) ウーファーを使用し、さらにメインスピーカーのモード設定に関わりなく、メインスピーカーの低音域をサブ (スーパー) ウーファーにミックスするときに設定するモードです。
LFE、メインチャンネルの90Hz以下の低音域と、センタースピーカーおよびリアスピーカーのモード設定による90Hz以下の低音域がSUB WOOFERに出力されます。



バスアウトモードの設定中は、モニター画面では低音域の信号が出力されるスピーカーが点滅します。(スピーカーレベル調整中は、テストトーンが出ているスピーカーが点滅表示されます。28ページ)



ドルビーデジタル (AC-3) について

ドルビープロ・ロジック		ドルビーデジタル (AC-3)	
2	記録チャンネル数	最大6	
4	再生チャンネル数	最大6 *	
前方左右 + 前方中央 + 後方	再生チャンネル構成	前方左右 + 前方中央 + 後方左右 + 低域効果音	
マトリックス処理、ドルビー・サラウンド	音声処理	ディスクリート処理、AC-3エンコード、デコード	
16ビット	信号処理ビット数	20ビット	
7kHz	サラウンド音声の高域再生限界	20kHz	

* ドルビーデジタル (AC-3)対応ディスクでも2チャンネルのディスクがあります。ディスクの説明書をご覧ください。

映画ソフトの音響システムを家庭で楽しむには、それなりの再生システムをリスニングルームに構築しなければなりません。従来の劇場用ドルビーステレオの場合は、ドルビープロ・ロジックという家庭用の規格「前方左右 + 前方中央 + 後方 = 計4チャンネル」が用意されていました。

そして、劇場用ドルビーデジタルに対して、家庭用に生まれた規格が「ドルビーデジタル (AC-3)」「前方左右 + 前方中央 + 後方左右 + 低域効果音 (LFE) = 計6チャンネル」です。

本機はドルビーデジタル (AC-3) デコーダーを搭載していますので、DVDプレーヤーやLDプレーヤーの再生するドルビーデジタルソフトを、ドルビーデジタルならではの臨場感にあふれた再生を可能にしています。

LFEについて

ドルビーデジタル (AC-3) で導入されたLFEは、特殊な低域効果音、あるいは5チャンネル部に収録しきれない部分の低域音として使用されます。ただし「LFEチャンネルだけが、ドルビーデジタルのサブウーファー用信号ではない」ということに注意が必要です。下図のように、全チャンネルフル帯域化により、各5チャンネルには、それぞれの方向情報を持った低域成分が含まれており、この低域をバランス良く再生することが、映画ソフトをサラウンド再生するときの最重要課題となります。

本機では、低域再生をより良く行えるように、スピーカーに応じたLFE/BASS OUT設定が可能になっています (26ページ)。また、LFEレベルを調整することも可能です。(46~47ページ)

PCM について

デジタル音声信号の記録/伝送方式です。

本機は、サンプリング周波数32kHzの衛星放送AモードからCDディスクの44.1kHz、衛星放送Bモード、DVDディスクの48kHzに対応しています

ご注意

ドルビーデジタル対応のDVDプレーヤーやLDプレーヤーを本機にデジタル接続しても、ドルビーデジタルでエンコードされていないディスク (ソフト) ではドルビーデジタル再生にはなりません。ドルビーデジタル対応のディスク (ソフト) を再生してください。

L	LOW	HIGH
C	LOW	HIGH
R	LOW	HIGH
RS	LOW	HIGH
LS	LOW	HIGH
LFE	~ 120Hz	

スピーカーレベルの調整

本機内蔵のテストトーンを使って、ドルビーサラウンド時のスピーカーの出力レベルを調整します。レベル調整するスピーカーはセンタースピーカー：CENTER、リア（R）スピーカー：R SUR.、リア（L）スピーカー：L SUR.です。

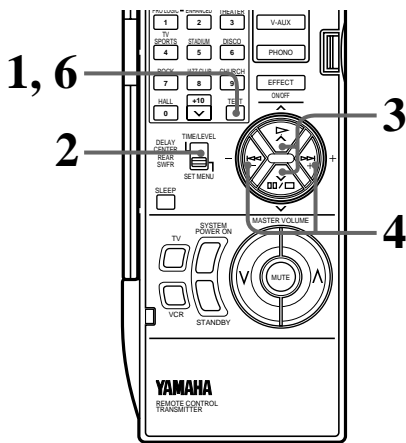
調整の前に

調整は、必ずリスニングポジションで行ってください。

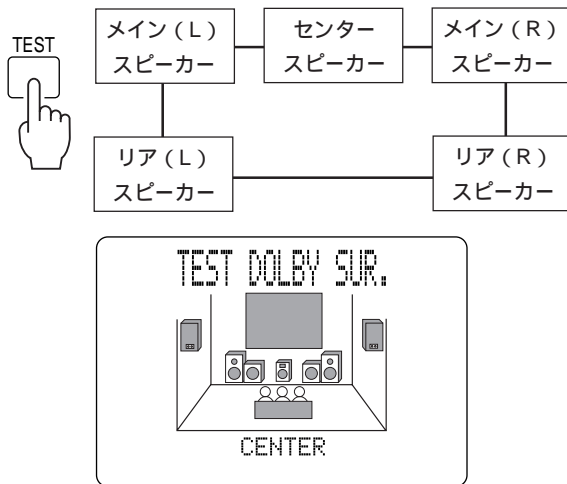
トーンおよびバランスコントロール（BASS、TREBLE、BALANCE）は“0”（中央）にします。

テストトーンが聞こえるようにMASTER VOLUMEを調整しておきます。

調整のしかた



リモコンのTESTキーを押します。テストトーンが約2.5秒ずつ、各スピーカーを巡回して聞こえます。



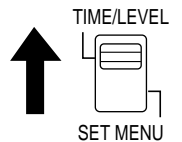
テストトーンに同期してモニターのスピーカー表示が点滅します。

センタースピーカーを使用しないPHNTMモードでは、センターレベルのテストトーンはメインスピーカーL、Rに振り分けられて出力されます。

テストトーンが聞こえない場合や、スピーカーの表示と聞こえる位置が異なる場合は、一度VOLUMEを絞り、電源を切ってから、スピーカーの接続を確認してください。

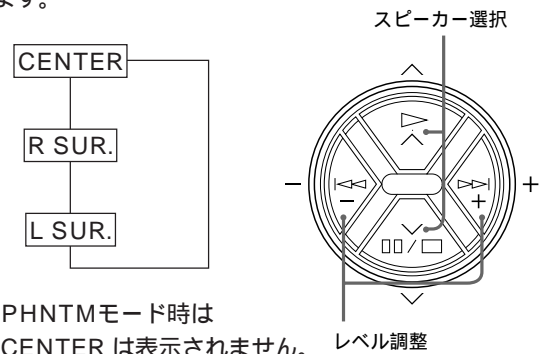
2

リモコンのTIME/LEVEL SET MENUスイッチをTIME/LEVEL側にします。



3

タイム/レベルセットメニューコントロールキーのへまたは∨キーを繰り返し押して、調整するスピーカーを選びます。



* PHNTMモード時はCENTERは表示されません。

本体で操作するときはDELAY/CENTER/REAR/SWFRキーを繰り返し押します。キーを押すごとに表示が切り換わります。

4

リモコン（または本体の）+、-キーを押して、選んだスピーカーの音量がメインスピーカーの音量と同じになるように調整します。

PHNTMモードでは、センターレベルの調整はできません。

レベル調整中は、選んだスピーカーからテストトーンが出ます。

5

3、4の操作を繰り返し、すべてのスピーカーの音量が同じになるように調整します。

センター、リアスピーカーのレベルを最大（+10dB）にしても、メインスピーカーより音が小さい場合は、リアパネルのMAIN LEVELスイッチを“-10dB”側にしてください。メインスピーカーの音量を聴感上約1/10に下げることができます。MAIN LEVELスイッチを“-10dB”にした場合は、センターおよびリアスピーカーのレベル調整を直してください。

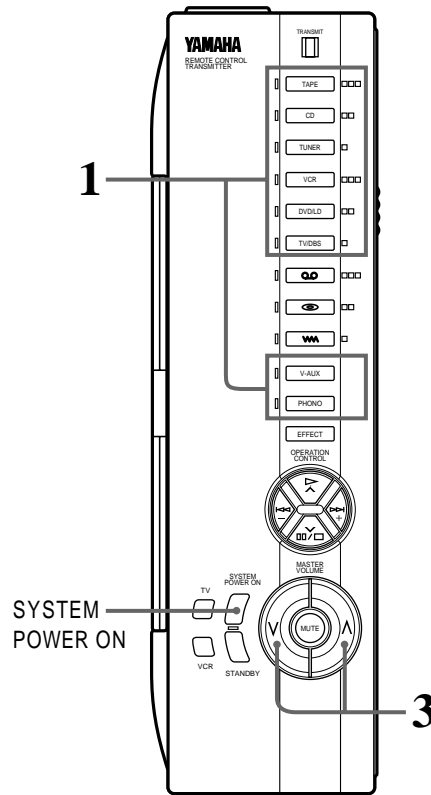
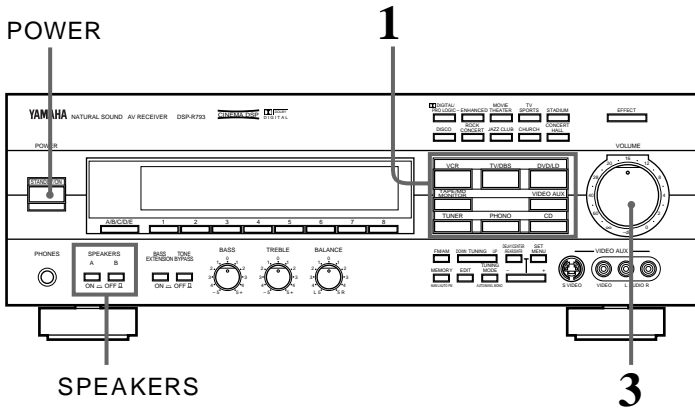
6

調整が終わったら、TESTキーを押します。テストトーンが消えます。

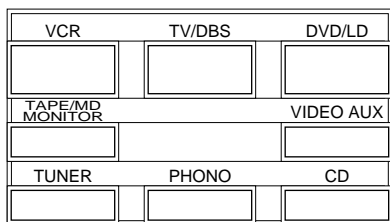


再生する

VOLUMEを絞ってからPOWERスイッチを押して電源を入れます。メインスピーカーを2組接続している場合は、SPEAKERSスイッチで使用するスピーカーを選びます。



1 インットセレクターで再生するソースを選びます。



1

オーディオ系

TAPE/MD MONITOR : テープデッキまたはMD
TUNER : 本機のAM/FMチューナー
PHONO : レコード
CD : CD

ビデオ系

VCR : ビデオデッキ
TV/DBS : テレビまたはBSチューナー
DVD/LD : DVDまたはLD
VIDEO AUX : フロントパネルのVIDEO AUX端子に接続したAV機器

ご注意

TAPE MONITORが表示されているとインットセレクターで他のソースを選んでも音は聞こえません。TAPE/MDデッキを再生しないときはTAPE/MD MONITORを押してTAPE MONITOR表示を消してください。

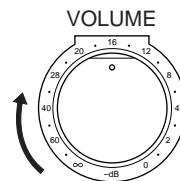
2

ソースの再生を始めます。

リモコンを装備している機器は、本機のリモコンで操作することができます。(31～33ページ、48ページ)
詳細はそれぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

3 VOLUMEで音量を調節します。

3



音質を調節するときはトーンコントロール(BASS、TREBLE)を使います。次頁をご覧ください。

入力モードの切替について

デジタル/アナログ双方の入力があるDVD/LDとTV/DBSは、入力後に、もう一度インットセレクターを押しますと、“AUTO”入力と“ANALOG”入力を切り換えることができます。

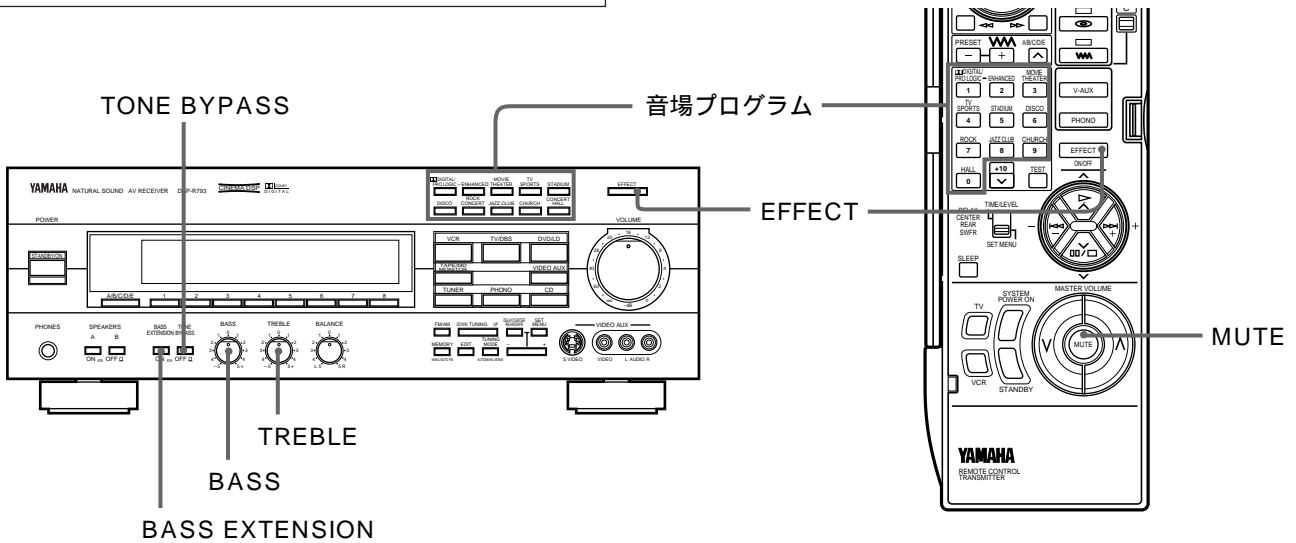
DVD/LD
AUTO 1 デジタル光入力 2 デジタル同軸入力 3 アナログ入力の優先順位で入力を自動選択します。
ANALOG アナログ入力に固定します。

TV/DBS
AUTO 1 デジタル入力 2 アナログ入力の優先順位で入力を自動選択します。
ANALOG アナログ入力に固定します。

ご注意

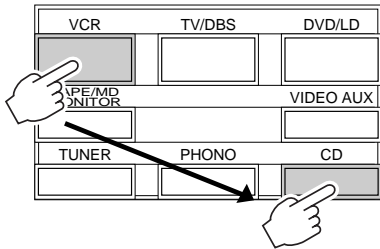
電源オン時、DVD/LDは“AUTO”に設定されます。TV/DBSはセットメニュー(47ページ)で設定した入力モードにより設定されます。

機能を使う



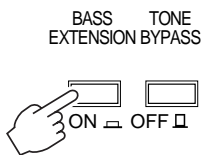
BGV機能

ビデオソースを選択した後、オーディオソースを選択すると、映像はそのまま残り、BGV（バックグラウンドビデオ）として楽しむことができます。



低音を強調するには

BASS EXTENSIONスイッチを押してONにします。解除するには、もう一度押してOFFにします。



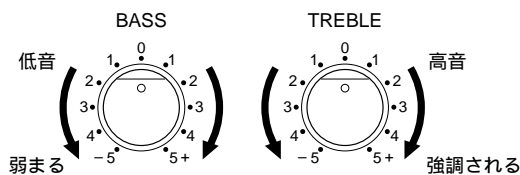
音質調節

BASS

低音域を調節するつまみで、右 (+) に回すほど低音域が強調され、左 (-) に回すほど弱まります。0の位置でフラットな特性になります。

TREBLE

高音域を調節するつまみで、右 (+) に回すほど高音域が強調され、左 (-) に回すほど弱まります。0の位置でフラットな特性になります。

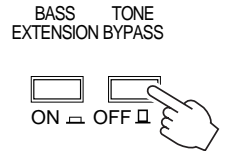


トーンコントロール (BASS・TREBLE) は、メイン左右チャンネルだけに働き、センターおよびリアチャンネルには働きません。

トーンコントロール (BASS・TREBLE) でメインを極端に強調したり弱めた場合、センターおよびリアとの音のつながりが悪くなりますので注意してください。

音質をフラットにするには

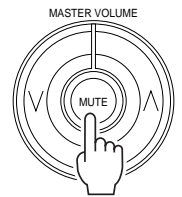
TONE BYPASSスイッチを押してONにします。もとの音質に戻すときは、もう一度押してOFFにします。



一時的に音量を下げるには

リモコンのMUTEキーを押します。もう一度押すともとの音量に戻ります。

ミュート中は本体のVOLUMEコントロールのインジケータが点滅します。ミュート中に電源を切ると、次に電源を入れたときもミュート状態になります。



音場プログラムを選ぶには

音場プログラムキーを押します。詳しくは34ページをご覧ください。

通常のステレオ再生


EFFECTキーを押してEFFECT OFF表示にします。

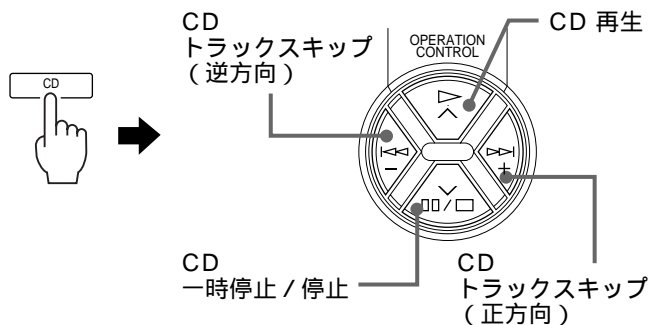
ご注意















































REC OUT (OUT) 端子に接続されている機器の電源が切られている場合、聴いているソースの音量が下がったり、歪んだりすることがあります。そのようなときは、接続機器の電源を入れてお使いください。

リモコンで操作する

オペレーションコントロール機能を使う—カバーを閉めて操作します

OPERATION CONTROLキーには、ヤマハのリモコン対応のテーブデッキ、CDプレーヤー、チューナーおよびLDプレーヤーをコントロールする信号がプリセットされています。例えば  を押すと、OPERATION CONTROLキーは右図のようになります。また、他の入力に対して主要な4つの操作をOPERATION CONTROLキーで行うことができます。



入力	OPERATION CONTROLキーの機能				信号を出力するエリアとゾーン	
					エリア	ゾーン
	▶ PLAY	■ STOP	▶▶ FF	◀◀ REW		
	▶ PLAY	■ PAUSE/STOP	▶▶ SKIP	◀◀ SKIP		
	プリセットグループ A/B/C/D/Eを選ぶ	—	プリセット局番号を選ぶ + UP - DOWN			
	 (PLAY)	 (STOP)	 (FF)	 (REW)		
	 (PLAY)	 (PAUSE/STOP)	 (SKIP)	 (SKIP)		
			 (UP)	 (DOWN)		
	 (PLAY)	 (STOP)	 (FF)	 (REW)		
	▶ LD PLAY	■ LD PAUSE/STOP	LD CHAPTER +	LD CHAPTER -		
			 (UP)	 (DOWN)		

OPERATION CONTROLの各キーは、入力に従って、対応するエリアのゾーンコントロールキーにラーニングさせた信号を出力します。■で示した機器を操作するときは、あらかじめラーニング(記憶)が必要です。

ラーニングのさせかたは48ページをご覧ください。

例えば、入力がTV/DBSのときは、OPERATION CONTROLキーの▶キーを押すと、エリアB、VWゾーンコントロールキーの ◯◯キーにラーニングさせた操作をすることができます。プリセットキーは、マークが同じヤマハの機器のリモコンのキーと同様の操作ができます。詳細は機器の取扱説明書をご覧ください。

カバーを閉めているときに操作できる機器は、入力中の機器に限ります。裏操作、例えば、CDを再生中にビデオデッキのテープを巻き戻すときは、次のように操作します。

- ① カバーを開け
- ② A/B/C切換スイッチを切り換え
- ③ ◯◯ゾーンコントロールキーの(ラーニング済みの)◀◀を押す

◯◯キーは現在「空き」キーで、入力切換機能はありませんが、オペレーションコントロール機能がありますので、◯◯キーを押すと、OPERATION CONTROLキーでヤマハのLDプレーヤーを操作することができます。また、ヤマハ以外のLDプレーヤーなどのコントロール信号をラーニング(48ページ)させることもできます。

◯◯キーおよびVWキーは現在「空き」キーです。

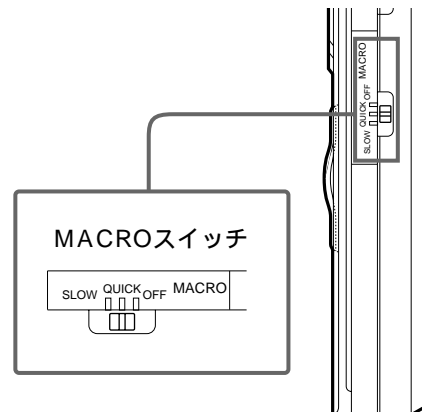
マクロ機能を使うーカバーを閉めて操作します

マクロ機能とは：ソースを再生するときに行う連続的なキー操作を、1つのキー操作でできるようにする機能です。

例えばCDを再生する場合、通常、①システムの電源オン ②CDに入力切換 ③PLAYキー（再生スタート）・・・などの操作が必要です。

マクロ機能を使いますと、一連のキー操作を、インプットセレクターのCDキーを押すだけで、CDを再生することができるようになります。

本リモコンのマクロキー（マクロマーク表示のインプットセレクターおよびSYSTEM POWER ON/STANDBYキー）には、マクロ機能があらかじめプリセットされています。また、マクロキーにはオリジナルのマクロ操作を設定することもできます。50ページをご覧ください。



マクロ機能を使うときは

- ① カバーを開け、MACROスイッチを、「SLOW」または「QUICK」の位置にします。
QUICK：マクロ信号が0.5秒間隔で出力されます。
SLOW：マクロ信号が3秒間隔で出力されます。
- ② 希望のマクロキーを押します。

ご注意

各機器の動作が始まるまでに時間がかかる場合や、希望の動作にならないときは「SLOW」の位置にします。マクロ機能を使わないときは「OFF」の位置にします。マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで、（TRASMIT/LEARNインジケーターが消灯するまで）他のキーの操作は受け付けません。「SLOW」で操作中は、特にご注意ください。マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで、本リモコンの送受信窓を本体および操作する機器のリモコン受光窓に向け続けてください。「SLOW」で操作中は、特にご注意ください。

プリセットマクロ動作について

マクロキー	1番目 ➡	2番目 ➡	3番目
	本体の電源オン (接続した機器の電源オン*1)	入力切換：TAPE	テープの再生スタート(*2)
		入力切換：CD	CDの再生スタート(*2)
		入力切換：TUNER	(メモリー受信)(*3)
		入力切換：VCR 1	VCRの再生スタート(*4)
		入力切換：DVD/LD	DVD/LDの再生スタート(*4)
		入力切換：TV/DBS	—————(*4)
		キーにラーニングした信号(*4)	—————(*4)
		キーにラーニングした信号(*4)	(LDの再生スタート)(*2, 4)
		キーにラーニングした信号(*4)	—————(*4)
		入力切換：V-AUX	—————
		入力切換：PHONO	—————
		テレビの電源オン(*5)	ビデオデッキの電源オン(*5)
		本体の電源オフ (接続した機器の電源オフ)	—————

*1 接続した機器の電源を入れるためには、接続機器の電源プラグを本体のSWITCHED AC OUTLETSに接続し、電源のオン/オフを本機に同期させるようにします。

*2 再生がスタートするのは、ヤマハのリモコン対応テープデッキ、CDプレーヤー、LDプレーヤーです。

*3 ヤマハのチューナーは電源を切る前に受信していた局を受信します。

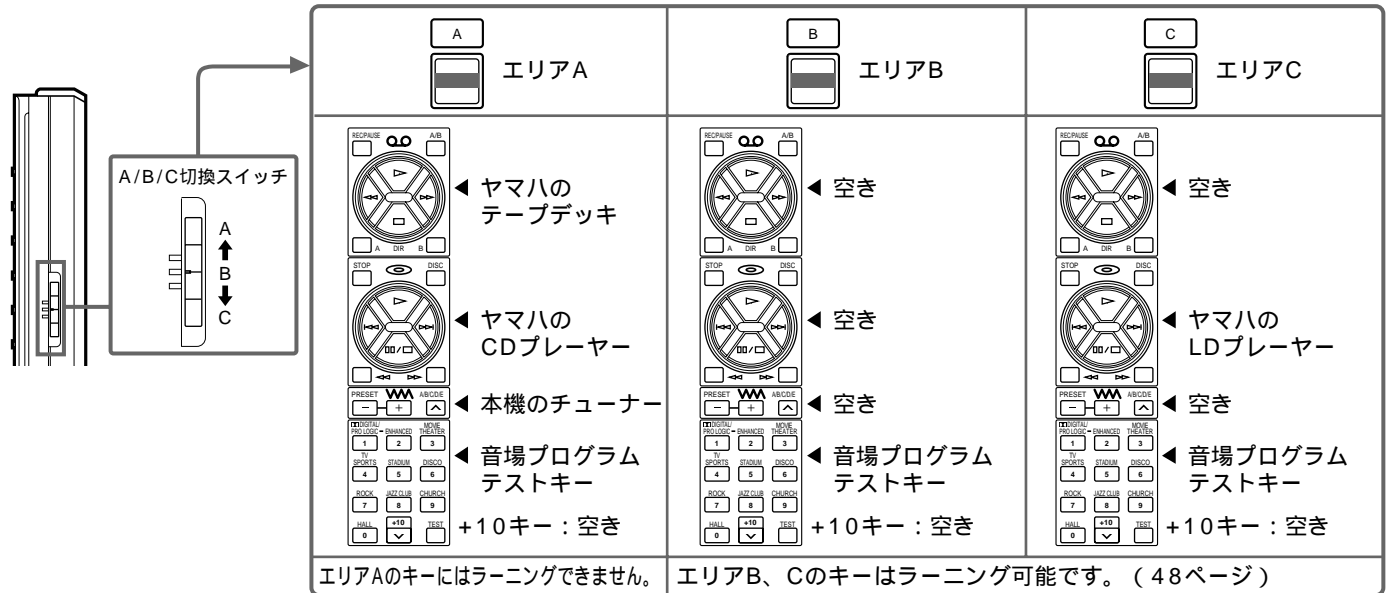
*4 ヤマハ以外の機器をマクロ操作するときは、対応するエリア(B/C)の各ゾーンコントロールキーにラーニングさせておく必要があります。48ページをご覧ください。

*5 キーを押すごとに電源のオン/オフが切り替わるテレビやビデオデッキの場合は、希望の操作にならないことがあります
例：すでに電源の入っているテレビでは、SYSTEM POWER ONキーを押すと電源が切れます。

機器個別の操作をする - カバーを開けて操作します

各機器個別の操作をするときは

- ① カバーを開けます。
- ② 入力ソースに合わせてA/B/C切換スイッチを切り換えます。
- ③ インプットセレクターで入力を切り換え、対応するゾーンコントロールキーで操作します。



ご注意

ヤマハのテープデッキ、CDプレーヤー、チューナーの操作はエリアAのQ.O、、WMの各ゾーンコントロールキーにプリセットされています。

“空き”で示されたキーは、ラーニング後に操作することができます。(48ページ)

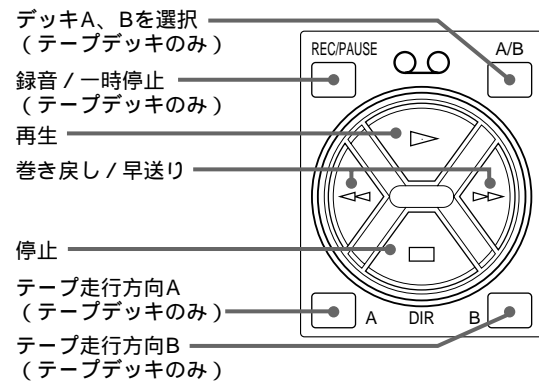
EFFECT、MASTER VOLUME、MUTE、TV、VCRの各キーは、カバーを開閉しても機能は変わりません。

インプットセレクター、Q.O、、WM、SYSTEM POWER ON、STANDBYの各キーはMACROスイッチがOFFの場合、カバーを開閉しても機能は変わりません。

テープデッキやビデオデッキの操作

Q.Oゾーンコントロールキーを使います。

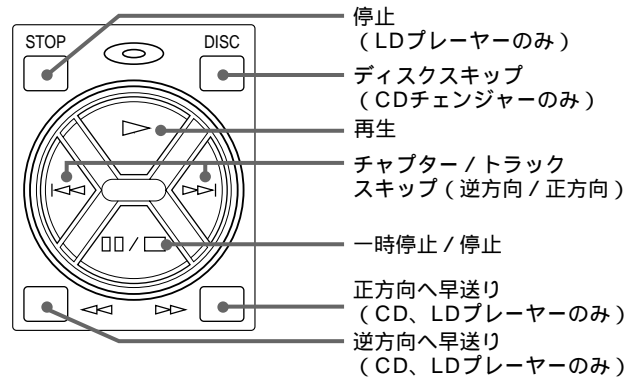
VCRはラーニング後に操作することができます。



CD、DVDまたはLDプレーヤーの操作

ゾーンコントロールキーを使います。

DVDはラーニング後に操作することができます。

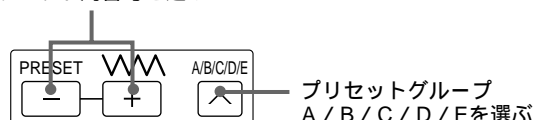


チューナーやTV/DBSの操作

WMゾーンコントロールキーを使います。

TV/DBSやWMはラーニング後に操作することができます。

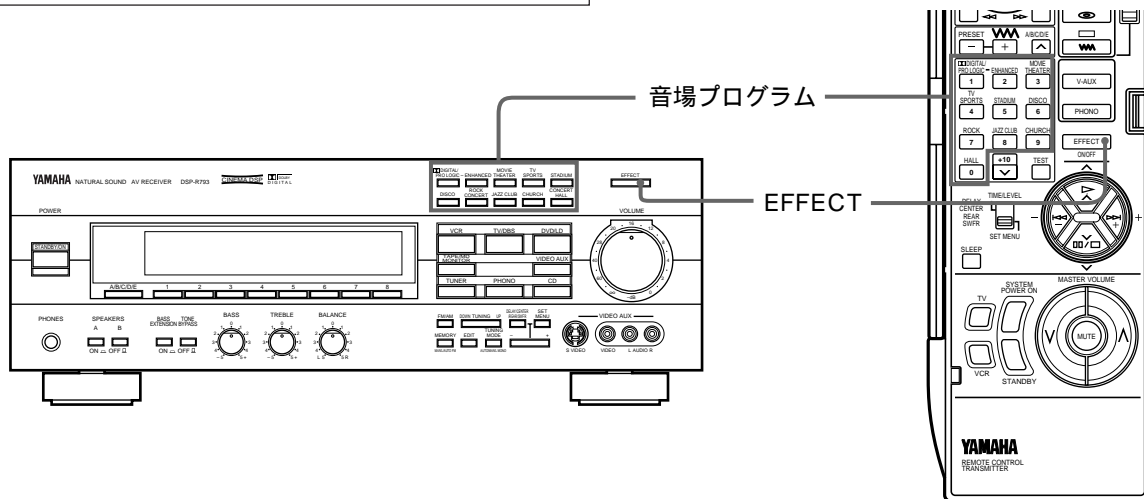
プリセット局番号を選ぶ



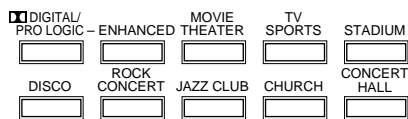
音場効果を楽しむ

本機は、より幅広い表現力を持つCINEMA DSP音場プログラムに加え、世界各国の著名な演奏会場での実測データをもとに作成されたHiFi-DSP音場プログラムを内蔵しています。メモリーされている音場プログラムは13種類。再生するときに音場を呼び出し、その臨場感と効果をお楽しみください。

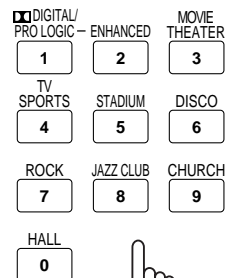
音場プログラムの選びかた



本体で操作するとき



リモコンで操作するとき



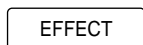
音場プログラムの入/切

EFFECTキーを押すたびに音場プログラムのオン/オフができます。音場プログラムをオフにするとEFFECT OFFが表示されます。

本体



リモコン



音場プログラムのメモリー

音場プログラムを設定すると、そのとき選んでいるインプットセクターにメモリーされます。音場プログラムを変えない限り、インプットセクターで入力を選ぶと、設定したプログラムになります。

音場プログラムの表示について

エフェクトがオンのときは、選んだプログラム名が、ディスプレイおよびモニター画面に表示されます。(プログラムによっては省略表示されるものがあります。)

プロセッシングインジケータについて

DIGITAL (ドルビーデジタル)

音場プログラム再生中、2チャンネル以外でエンコードされたドルビーデジタル(AC-3)信号再生時に点灯します。

PRO LOGIC (ドルビープロ・ロジック)

音場プログラムNo.1から3で再生中、2チャンネルでエンコードされたドルビーデジタル(AC-3)信号、PCM信号、アナログ信号再生時に点灯します。

DSP (デジタルサウンドフィールドプロセッサー)

音場プログラムNo.2から10で再生中に点灯します。

ご注意

ドルビーデジタル(AC-3)の記録チャンネル数は、ソフトにより異なります。

音場とは・・・

「その空間が持つ特有な音の響き」を音場と呼んでいます。

コンサートホールなどで、私たちは、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」のほかに、床や壁・天井などに一回反射してから聴こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射をくり返し、次第に減衰していく「後部残響音」を聴くことになります。(図A) 私たちは、直接音、初期反射音、後部残響音の一連の流れを一つの音として聴いているわけです。

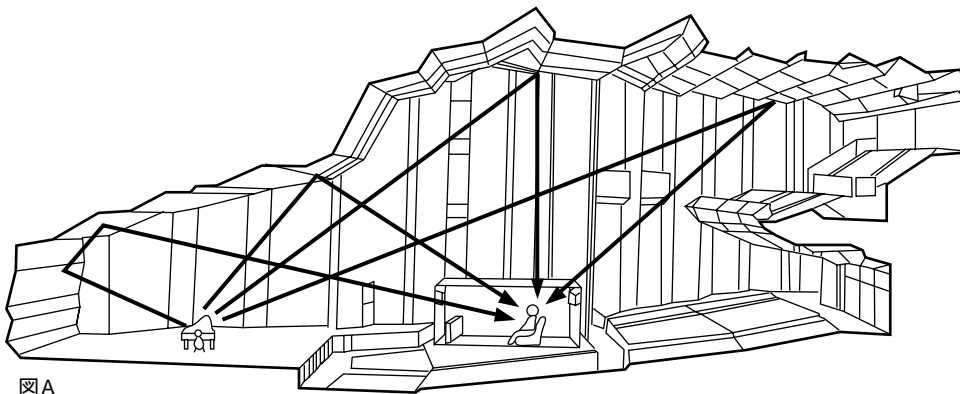
反射音は、壁などに反射してから耳に到達するため、直接音より遅れてきます。そして時間経過とともに、壁や床・天井などに吸音され、直接音よりレベルが小さくなります。(図B)

これらの初期反射音と残響音の構成は、建物内部の形状や広さ、内装材料の種類などによって異なり、そのホール特有の響きが生まれます。

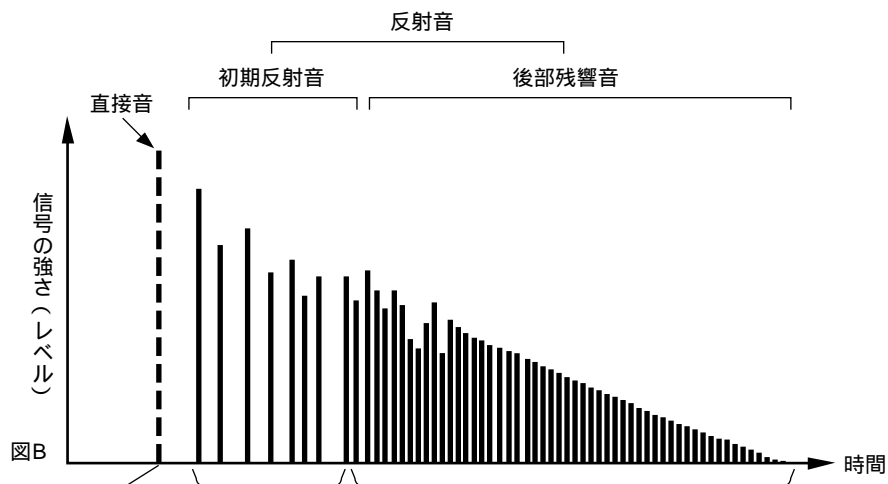
それが「音場」です。

ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間などの音場情報を実際に測定し、その膨大なデータをROMに蓄積しています。

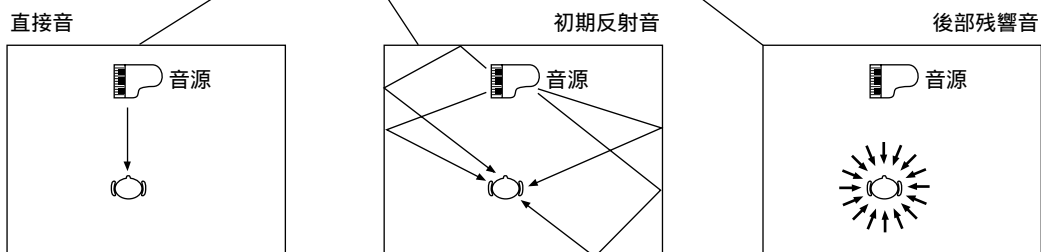
本機は、音場を再現するヤマハDSP(デジタルサウンドフィールドプロセッサ)を搭載、この音場実測データをもとに作成された音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウスの音場をリスニングルームに再現することができます。



図A



図B



音場プログラムの詳細は36、37ページをご覧ください。

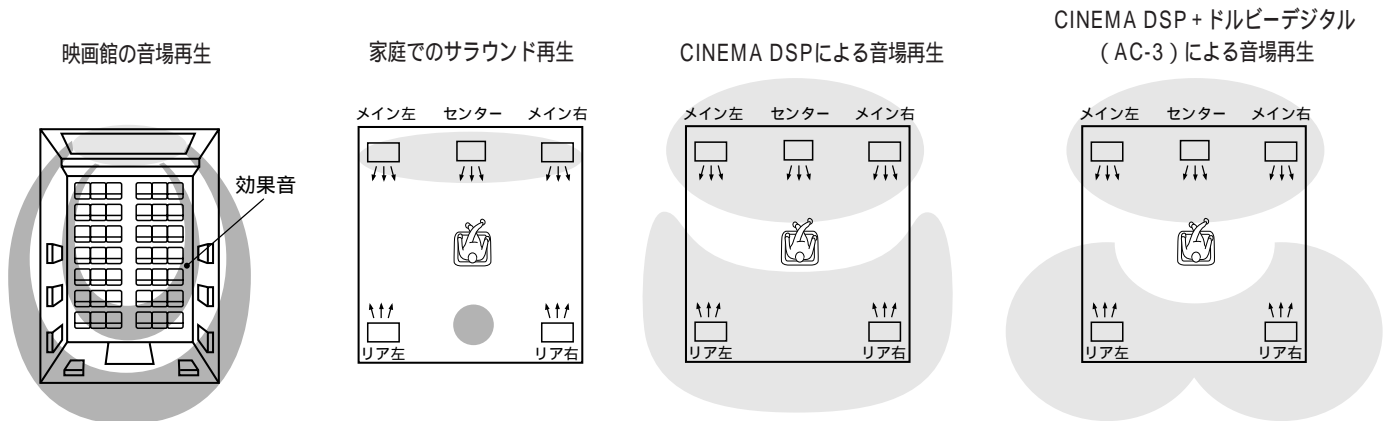
CINEMA DSP音場プログラムの特長

映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥、音楽はさらにその奥に拡がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。

ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP」です。映画のサラウンドデコーダーであるドルビープロ・ロジックやドルビーデジタル（AC-3）とヤマハDSPを融合し、映画のサラウンドを最良の状態デザインするダビングステージ（最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス）でのクオリティをAVルームに再現するサラウンド音場です。

CINEMA DSPの音場プログラムでは、フロントのL、C、RチャンネルにもヤマハDSP処理を加えることで、視聴者はセリフの实在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。

また、本機のCINEMA DSP音場プログラムは、ドルビーデジタル（AC-3）信号が入力されると、自動的にドルビーデジタル（AC-3）に対応した音場処理に最適化されます。プログラムNo. 1 から 3 は、ドルビーデジタル（AC-3）入力時はプログラム名も変わりますが、各音場の目的とする効果のコンセプトは変わりません。



CINEMA DSP音場プログラム名と最適ソース

No.	プログラム名	特長および最適ソース
1	プロ ロジック PRO LOGIC	ドルビープロ・ロジックで記録されたソースの再生用。
	ドルビー デジタル DOLBY DIGITAL *	ドルビーデジタル（AC-3）で記録されたソースの再生用。セパレーションに優れ安定した効果が得られます。
2	プロ ロジック エンハンスド PRO LOGIC ENHANCED	ドルビープロ・ロジックのサラウンド信号を周囲に広げ、35mm映画館のマルチサラウンドシステムを再現します。
	ドルビー デジタル エンハンスド DOLBY DIGITAL ENHANCED *	
3	ムービー シアター 70mm MOVIE THEATER	最新の映画館の音場、70mmサウンドトラックの音場効果を再現します。
	デジタル ムービー シアター DIGITAL MOVIE THEATER *	
4	スポーツ TV SPORTS	スポーツ中継やバラエティなど、適用範囲が広い音場効果が得られます。
	スポーツ TV SPORTS *	

ドルビープロ・ロジックデコーダー、方向性強調回路、またはドルビーデジタル（AC-3）デコーダーが使用されます。

センタースピーカーを使用した場合は、良好なセンター定位が得られます。

メインL、Rも方向性強調回路で信号処理された出力になります。（ドルビーデジタル（AC-3）時を除く）

プロ・ロジックおよびプロ・ロジックエンハンスドは、方向性強調回路を使用するため、ソースがモノラルの場合、リアスピーカーから音は出ません。

音場プログラムは名前にこだわらず、聴感上最も気に入ったものを選択してください。また、実際に聴くときは、プログラムの音場にリスニングルーム自体の音場が付加されます。プログラムの音場を楽しむには、リスニングルームをできるだけデッドに（反射音が無いように）調整しましょう。

プログラムNo.1から4の*表示はドルビーデジタル（AC-3）入力時のプログラム名です。

HiFi-DSP音場プログラムの特長

本機は、6種類のHiFi-DSP音場プログラムを内蔵しています。これらの音場プログラムはメインスピーカーと2本のリアスピーカーで音場を再現します。(ドルビーデジタル(AC-3)入力時も音場が楽しめます。)

本機の内蔵するHiFi-DSP音場プログラムは、音場処理の違いによって「初期反射音プログラム」と「初期反射+残響プログラム」に分けることができます。

初期反射音プログラム：STADIUM、DISCO、ROCK CONCERT、JAZZ CLUB、CONCERT HALL

コンサートホールやジャズクラブの音場の違いを決定づけるのは反射音の構成です。

初期反射音プログラムは、処理能力の大幅な拡張により、長い遅延時間をもった微少レベルの反射音まで、音場測定で得た空間情報を取り込んでいます。

初期反射音+残響プログラム：CHURCH

チャーチの音場は、初期反射音とともに残響成分がその大きな特長です。

初期反射音+残響プログラムは「初期反射音の処理」と「高品位なデジタルリバース処理」で構成されています。

ヤマハでは、残響成分の持つ空間情報を、自然な空間イメージのまま再現するために「4チャンネルアウトプットリバース」を採用しています。また本機はきめ細かなリバースを実現、フィードバックディレイも格段に長いものを組み合わせて使用し、自然な残響感を再現します。

HiFi-DSP音場プログラム名と最適ソース

No.	プログラム名	特長および最適ソース
5	<small>スタジアム</small> STADIUM	野外スタジアムの音場を再現します。
6	<small>ディスコ</small> DISCO	ホットなディスコの雰囲気再現。拡がり感よりも、集中したエネルギー感に特長があります。
7	<small>ロック</small> <small>コンサート</small> ROCK CONCERT	ロサンゼルスなどのホットなロックライブハウスの音場効果が得られます。
8	<small>ジャズ</small> <small>クラブ</small> JAZZ CLUB	天井の低いアットホームなジャズのライブステージの音場を再現します。
9	<small>チャーチ</small> CHURCH	適度な残響感を伴う教会の音場を再現します。
10	<small>コンサート</small> <small>ホール</small> CONCERT HALL	響きの豊かな中規模円形ホールの音場効果が得られます。

メインスピーカーL、Rからは入力されたままの音声にフロントエフェクト音を加えられた音声が出力されます。

入力がドルビーデジタル(AC-3)以外の場合は、センタースピーカーからは音が出ません。

ドルビーデジタル(AC-3)入力時もプログラム名は変わりません。

実測データを採用しているため、プログラムによっては効果音の左右バランスが異なるものがあります。

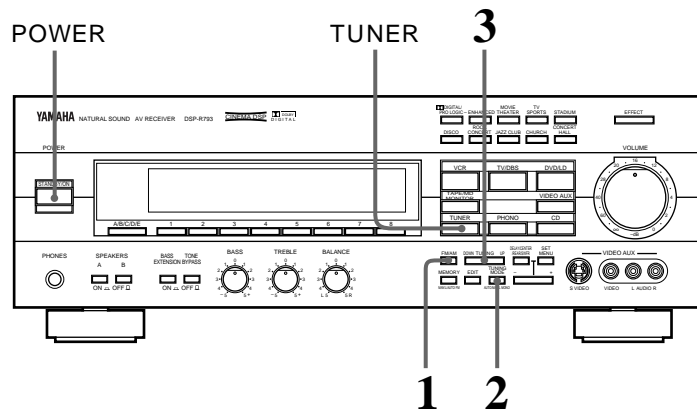
* ドルビーデジタルとドルビープロ・ロジックは、ドルビーラボラトリーズライセンスコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY、AC-3、PRO LOGIC 及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズライセンスコーポレーションの商標です。

FM/AM放送を聴く

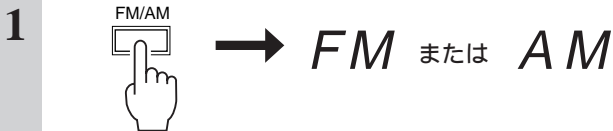
FM/AM放送を聴くときは、電源を入れインプットセクターのTUNERキーを押し、入力をチューナーにしてから操作をします。

選局する

選局のしかたには、自動的に選局するオート選局と、手動で選局するマニュアル選局の2種類あります。電波の強い放送局を受信するときは、オート選局が速くて便利ですが、電波の弱い放送局は、マニュアル選局をしてください。



1 FM/AMキーを押して、希望するバンド（FMまたはAM）を選びます。

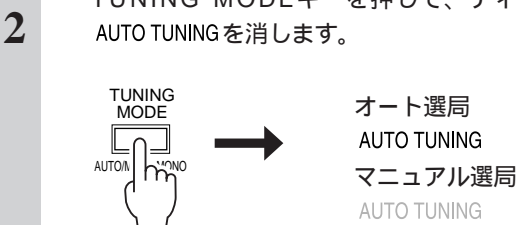


オート選局

TUNING MODEキーを押して、ディスプレイにAUTO TUNINGを点灯させます。

マニュアル選局

TUNING MODEキーを押して、ディスプレイのAUTO TUNINGを消します。



3 TUNINGキーのDOWNまたはUPキーを押します。低い周波数の放送局を探すときはDOWN側を、高い周波数の放送局を探すときはUP側を押します。

オート選局

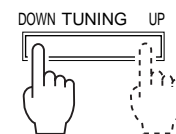
自動的に選局し停止します。

受信した放送局が希望の局ではないときは、もう一度TUNINGキーを押します。

マニュアル選局

希望の周波数が表示されるまで押します。

押し続けると連続的に周波数が変わります。

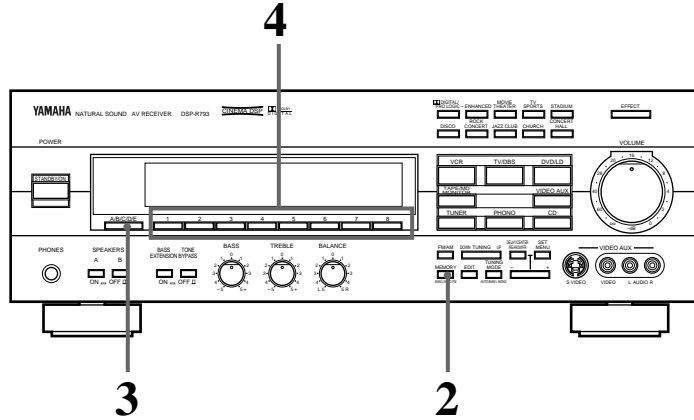


ステレオ放送受信時に雑音が多い場合は、TUNING MODEキーを押します。モノラル受信になりますが、雑音は軽減されます。

プリセットのしかた

放送局をプリセット（メモリー）しておけば、あとは簡単なキー操作で選局することができます。プリセットの方法にはFM、AM局を選局してプリセットするマニュアルと、FM局のみを自動的にプリセットするオートの2種類があります。

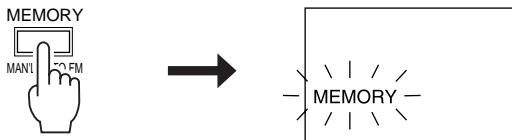
40局（8局×5グループ）までプリセットすることができます。
プリセットしたときの受信モード（ステレオ/モノラル）もメモリーされます。



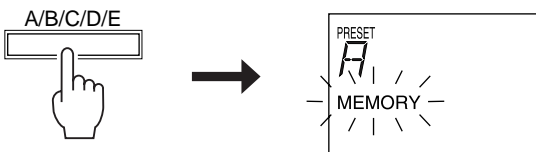
マニュアルプリセットのしかた

1 オート選局またはマニュアル選局で希望する放送局を選局します。

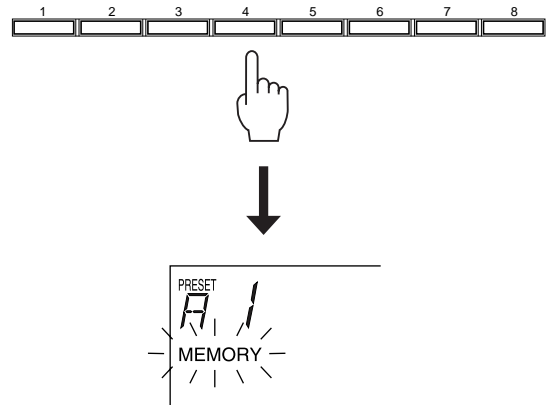
2 MEMORYキーを押します。
ディスプレイのMEMORYが点滅（約5秒間）、プリセットできる状態になります。



3 MEMORYが点滅中に、A/B/C/D/Eキーを押して希望のプリセットグループ（A/B/C/D/E）を選びます。



4 MEMORYが点滅中に、プリセット局番号の希望のキーを押し、希望するプリセット番号を表示させます。

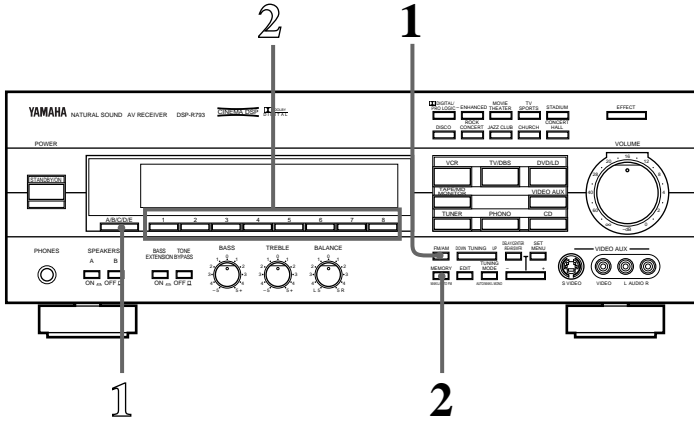


これでプリセットが終わりました。
他の放送局を続けてプリセットするときは、1~4の手順をくり返します。

プリセットした放送局を変更するには1~4の手順をくり返します。前の放送局に変わって新しくプリセットした放送局がメモリーされます。

オートプリセットのしかた

電波の強いFM放送局のみを自動的にプリセットします。



FM/AMキーを押してFMを選びます。



MEMORYキーを約3秒間押し続けます。局を受信するごとに、「A1」から自動的にプリセットします。



現在表示されている周波数から受信したFM局を順にプリセットします。「E8」まで順番にプリセットすると停止します。

オートプリセットが停止したら最後にプリセットした放送局の周波数が表示されます。プリセット番号の「A1」から順番に選局して、プリセットの内容を確認してください。オートプリセットでは、プリセットする放送局の数が「E8」に満たない場合は全帯域を1巡して停止します。

ご注意

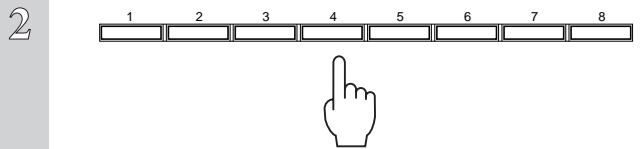
マニュアルまたはオートプリセットで新しい放送局がプリセットされると、前にプリセットされていた放送局は消え、新しい放送局に入れかわります。

プリセット選局のしかた

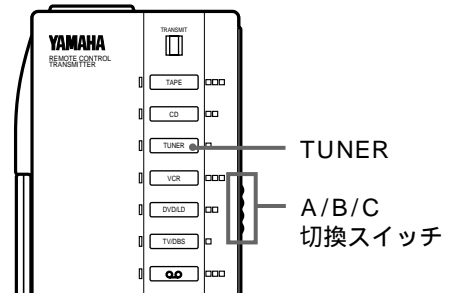
A/B/C/D/Eキーを押して、希望する放送局が入っているプリセットグループを選びます。



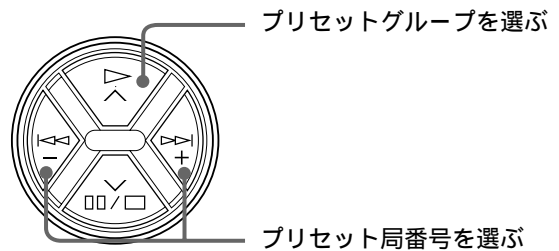
プリセット局番号キーを押して、希望のプリセット番号を表示させます。



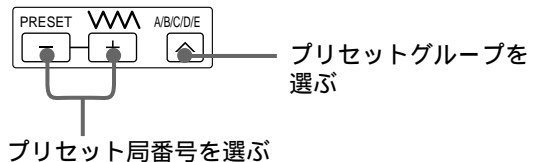
リモコンでプリセット選局するには電源を入れ、TUNERキーを押してから操作します。



カバーを閉めて操作する OPERATION CONTROLキーを使います。

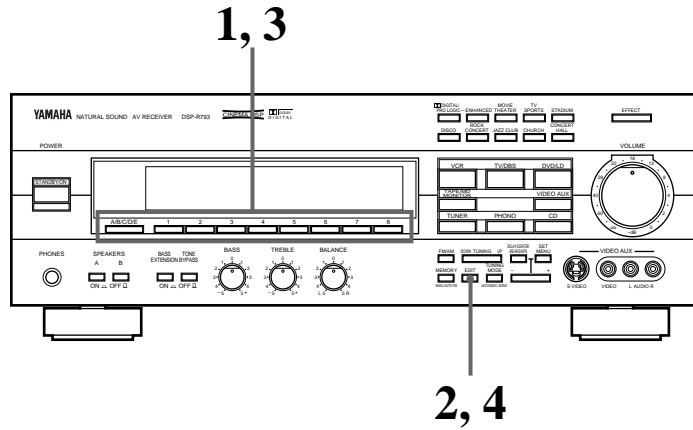


- カバーを開けて操作する
- ① A/B/C切換スイッチをAにする。
- ② ゾーンコントロール キーを使います。



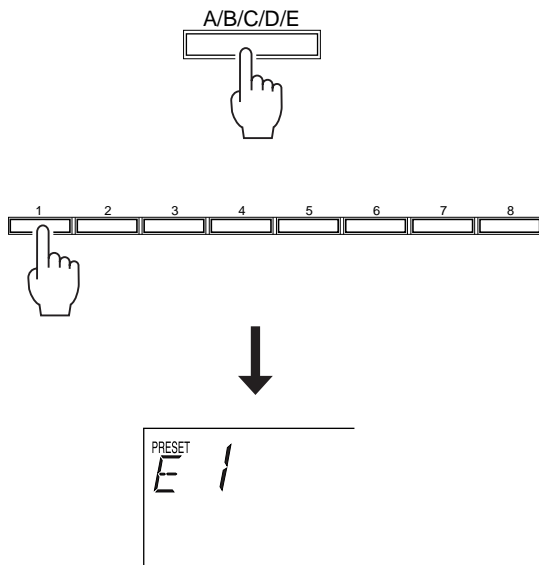
プリセット局の入れかえ

プリセットした放送局を入れかえることができます。
良く聴く放送局やバンド別などにプリセット局を分類することができます。

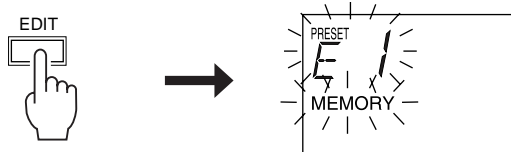


例) 「E1」にプリセットした放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合

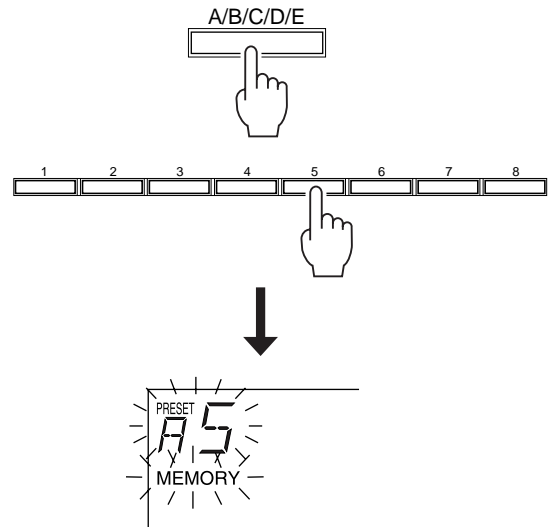
1 A/B/C/D/Eキーとプリセット局番号キーを押して「E1」を選びます。



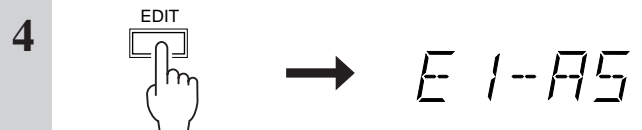
2 EDITキーを押します。



3 A/B/C/D/Eキーとプリセット局番号キーを押して「A5」を選びます。



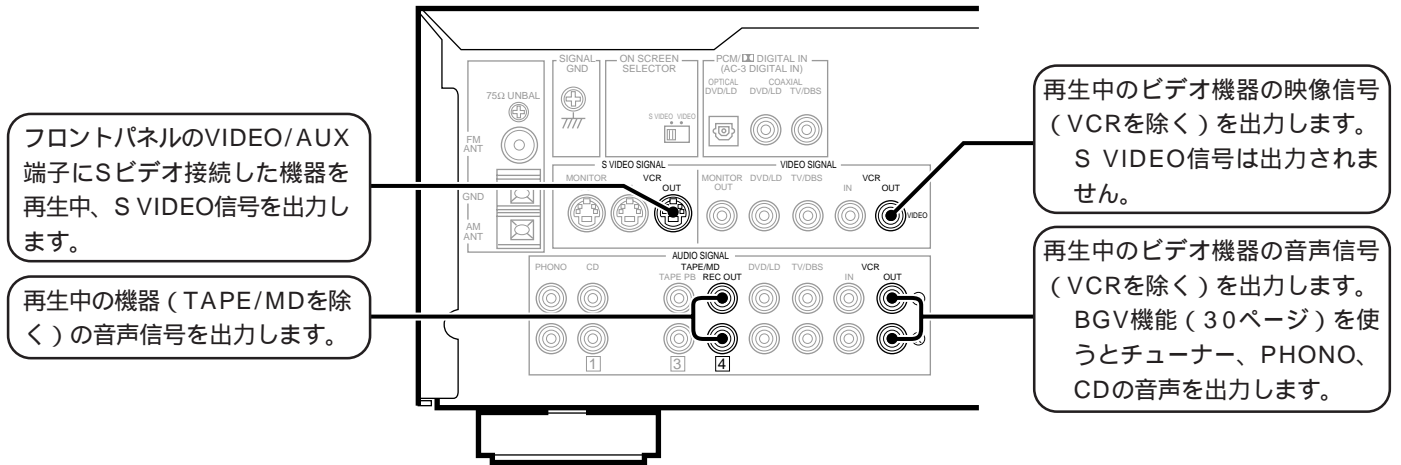
4 EDITキーを押します。
プリセット局が入れかわりました。



録音と録画

本機は、再生中のソースの音声/映像信号をそのまま音声/映像出力端子（TAPE/MD REC OUT端子）やビデオデッキ（VCR OUT端子）に出力しますので、録音/録画のための操作を本機で行うことはありません。

録音レベルの調整はデッキ側で行います。



CDやFM/AM放送を録音するときは

CD（レコード）またはFM/AM放送を聴いているときに、接続したテープ/MDデッキを録音操作します。

ビデオソースを録画するときは

DVD/LD端子やTV/DBS端子に接続したビデオ機器の音声/映像を、ビデオデッキ（VCR）端子に接続したビデオデッキで録画することができます。

ビデオ機器を再生し、ビデオデッキを録画操作します。

ビデオテープをダビングするときはダビングもとのビデオデッキをフロントパネルのVIDEO AUX端子に接続します。

- 1 VIDEO AUX端子に接続したビデオデッキを再生します。
- 2 ビデオデッキ（VCR）端子に接続したビデオデッキを録画操作します。

ご注意

トーンコントロール（BASS、TREBLE）、BASS EXTENSION、BALANCE、VOLUMEや音場効果を加えた音を録音することはできません。

録音/録画をするときは、事前に試し録音/録画をしてください。

本機の電源が切れているときは、接続した機器間の録音/録画はできません。

録音/録画をする際、同一ソースの録音/録画はできません。（ビデオデッキ入力端子から入った信号は、ビデオデッキ出力端子には出力されません。）

S VIDEO端子からの録画は、S VIDEO端子どうしのみ、ピンジャック端子からの録画は、ピンジャックどうしのみ有効です。

あなたが録音/録画したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

タイマー再生 / 録音

市販のオーディオタイマーと組み合わせて、タイマー再生やタイマー録音をすることができます。ご使用になる機器やオーディオタイマーにより操作方法が異なることがありますので、それらの取扱説明書も併せてご覧ください。

接続

- 1 本機の電源プラグをオーディオタイマーに接続します。
- 2 タイマー再生する機器の電源プラグを本機のAC アウトレットに接続します。
接続する機器の合計消費電力がAC アウトレットの供給電力(100W)を超えないように注意してください。

操作

- 1 すべての機器の電源をオンにします。
- 2 インプットセレクターでタイマー再生 / 録音するソースを選びます。
タイマー再生の場合：
再生する機器をタイマー再生ができるように操作します。
タイマー録音の場合：
録音するソースをタイマー再生できるように操作し、テープデッキなど録音する機器をタイマー録音ができるように操作します。
- 3 本機のVOLUMEを調節します。
タイマー録音で音出しをしない場合は、VOLUMEを絞っておきます。
- 4 タイマー再生 / 録音開始時刻および終了時刻をオーディオタイマーでセットします。
設定した時刻になるとタイマー再生 / 録音が始まります。

スリープタイマー

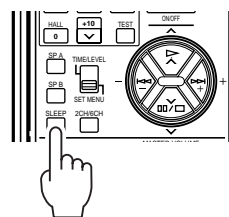
設定した時間が経過すると電源が切れるので、聴きながらおやすみになれます。
リモコンで操作します。

再生します。

ご注意

- 1 本機のAC アウトレットに接続した機器（ソース）を選びます。それ以外の機器を選ぶと、本機の電源は切れますが、ソース側の電源は切れません。

SLEEPキーを押して時間を設定します。



- 2 押すごとに次のように切り換わります。
(単位：分)



設定時間を数秒間表示したあと入力ソース表示に戻ります。

スリープタイマーは、電源を切ると解除されます。

スリープ動作を途中でやめるには

SLEEPキーを押して、SLEEP OFF表示にします。

メモリーバックアップについて

本機のPOWERスイッチで電源を切っても、インプットセレクター、ディレイタイム、スピーカーモード、レベル（センター、リア）などの内容は消えずに、記憶（メモリー）されています。本機では、メモリー内容を保持するために、特殊なコンデンサーを内蔵してバックアップしています。また、約2週間は電源コードを電源コンセントから抜いても、メモリー内容はそのまま記憶されています。ただし、2週間以上電源コードをコンセントから外した場合には、バックアップしているコンデンサーが放電してしまい、メモリー内容が消えることがあります。このような場合は、スピーカーモード、ディレイタイム、スピーカーレベルおよびセットメニューの設定をし直してください。（24、28、44、46ページ）

電源コードが電源コンセントに接続されていれば、POWERスイッチを切ってもメモリーは常にバックアップされています。メモリー内容が消えることはありません。

音場プログラムをアレンジする

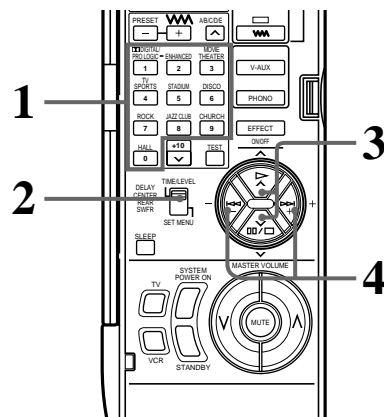
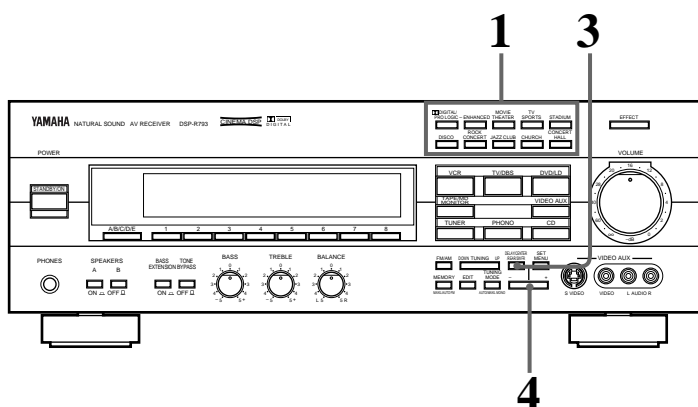
音場プログラムのパラメーター（ディレイタイム）は、各プログラムごとに最適値がプリセットされていますので、基本的に変更する必要はありません。

しかし、パラメーターを変更して、音場キャラクターを活かしたまま、ソースやリスニングルームの状況に合わせた音場プログラムにアレンジすることができます。

音場プログラムを加味した再生音を聴きながら、調整することができます。

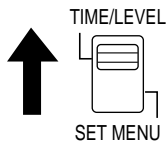
変更したパラメーターは、メモリーされますので、コンセントを抜かない限り、電源を切っても消えません。

パラメーターの変更方法

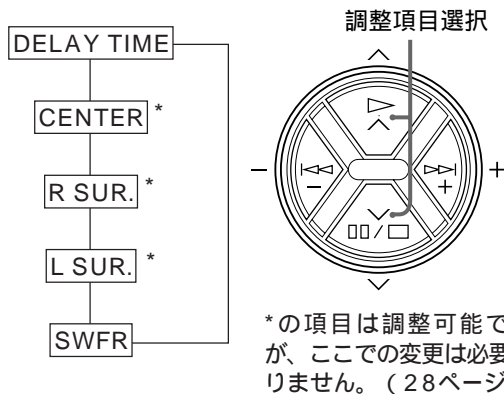


1 変更したい音場プログラムを選びます。（34ページ）音場プログラムを使わないときも、SWFRのレベルは調整することができます。

2 リモコンのTIME/LEVEL SET MENUスイッチをTIME/LEVEL側に切り換えます。



3 タイム/レベル セットメニューコントロールキーの△キーまたは▽キーを繰り返し押し続けて、調整する項目を選びます。



設定されているスピーカーモードやプログラムにより調整不要の項目は表示されません。

本体で操作するときは

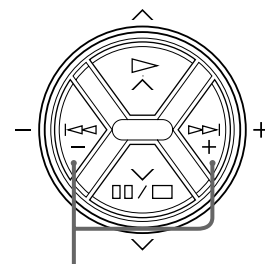
DELAY/CENTER/REAR/SWFRキーを繰り返し押す。キーを押すごとに表示が切り換わります。

リモコン（または本体）の+、-キーを押して、各パラメーターを変更します。

ディレイタイムを長めに設定すると大きめの音場空間が、短めに設定すると小さめの音場空間が設定されます。

表示が自動的に消えると変更は完了です。

4



タイム/レベル変更

5 他のプログラムのパラメーターを変更するときは、音場プログラムを選び3、4の操作を繰り返します。

ディレイタイムの可変範囲はプログラムごとに異なります。次ページをご覧ください。

パラメーターガイド

ディレイタイムの可変範囲

	プログラム名	初期値 (ms)	可変範囲 (ms) 可変ステップ = 1ms	変更値 (ms)
1	PRO LOGIC	20	15 ~ 30	
	DOLBY DIGITAL *	15	0 ~ 15	
2	PRO LOGIC ENHANCED	20	15 ~ 30	
	DOLBY DIGITAL ENHANCED *	15	0 ~ 15	
3	70mm MOVIE THEATER	17	15 ~ 30	
	DIGITAL MOVIE THEATER *	22	1 ~ 50	
4	TV SPORTS	20	1 ~ 50	
	TV SPORTS *	10	1 ~ 50	
5	STADIUM	45	1 ~ 50	
6	DISCO	14	1 ~ 50	
7	ROCK CONCERT	22	1 ~ 50	
8	JAZZ CLUB	26	1 ~ 50	
9	CHURCH	40	1 ~ 50	
10	CONCERT HALL	30	1 ~ 50	

*ドルビーデジタル入力時のプログラム名

ディレイタイムを変更したときは、「変更値」欄に記入しておきますと、設定した内容が消えたとき（2週間以上、本機の電源コードをコンセントから抜いたとき）に便利です。

スピーカーレベルの可変範囲

スピーカー	初期値 (dB)	可変範囲 (dB) 可変ステップ = 1dB	変更値 (dB)
センター (CENTER)	0	MIN、-20dB ~ +10	
リア (右) (R SUR.)	0	MIN、-20dB ~ +10	
リア (左) (L SUR.)	0	MIN、-20dB ~ +10	
サブウーファー (SWFR)	0	MIN、-20dB ~ 0	

プログラムNo.5から10を使って再生中、2チャンネルでエンコードされたドルビーデジタル信号、PCM信号、アナログ信号入力時は、センターレベルの変更はできません。

MINに設定すると音は出ません。

スピーカーレベルを変更したときは、「変更値」欄に記入しておきますと、設定した内容が消えたとき（2週間以上、本機の電源コードをコンセントから抜いたとき）に便利です。

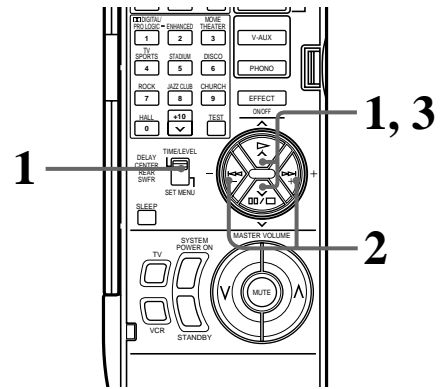
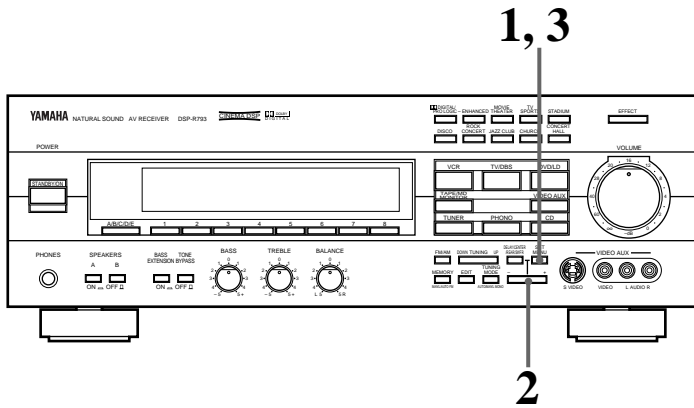
初期値に戻すには

+キーまたは-キーを押し続けます。連続的に変化する値がいったん止まる表示が初期値です。

セットメニューの設定

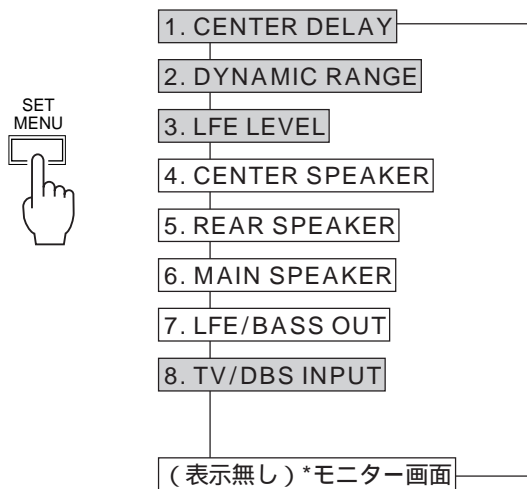
本機には8項目のセットメニューがあります。使用するスピーカーシステムに合わせて設定するスピーカーモード（24ページ）や、TV/DBSのインプットモードの設定などの機能がセットメニューに納められています。必要に応じてセットメニューを呼び出し、設定してください。

メニューを選ぶには



SET MENUキーを繰り返し押して、設定する項目を選びます。

キーを押すごとに表示が切り換わります。



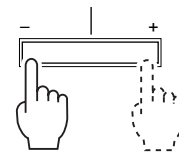
リモコンで操作するときは

- ① TIME/LEVEL SET MENUスイッチをSET MENU側に切り換える。
- ② タイム/レベルセットメニューコントロールキーのへキーまたは∨キーを繰り返し押す。

設定する項目を表示させ、本体（またはリモコン）の+、-キーで設定します。

2

4～7の「スピーカーモードの設定」は24ページをご覧ください。



設定を終えるときは、SET MENUスイッチを数回押して、セットメニュー画面表示を消します。

DELAY/CENTER/REAR/SWFRスイッチを押すと、設定モードは解除されます。

3



リモコンで操作するときは

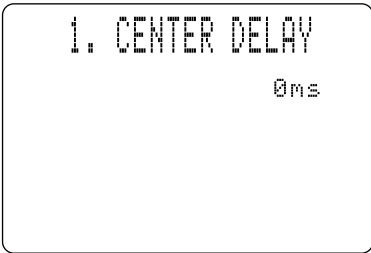
タイム/レベルセットメニューコントロールキーのへまたは∨キーを数回押して、画面表示を消します。

ご注意

メニュー1、2、3の設定内容は、ドルビーデジタル信号再生時に有効になります。

メニューの内容

1. CENTER DELAY 設定範囲：0～5ms（1msステップ） 初期値：0ms



センタースピーカーのディレイタイムを設定します。（ドルビーデジタル再生時のみ有効）
+、-キーを押してディレイタイムを設定します。

通常センタースピーカーはメインL、Rスピーカーと同一線上に設置しますが、本来は同時に
出た音が同時にリスナーの耳に届くように、3つのスピーカーとリスナーの距離が
同一になるのが理想です。ディレイタイムを設定することによって、仮想的にセンター
スピーカーの位置を遠ざけ、リスナーと3つのスピーカーとの距離を合わせることが
できます。目安として1ms増すと30cm遠ざかったこととなります。
センターディレイは、特にノーマルモードでセンタースピーカーを使用しているとき、セ
リフの量感に効果があります。

2. DYNAMIC RANGE 設定内容：MAX/STD/MIN 初期値：MAX



ドルビーデジタル（AC-3）再生時のダイナミックレンジをMAX/STD/MINの3種類から
設定します。（ドルビーデジタル再生時のみ有効）

MAX 映画館そのままのダイナミックレンジです。
STD（STANDARD）..... ソフト制作者が家庭用として推奨するダイナミックレンジです。
MIN 小音量でも聴きやすく、深夜の視聴に適したダイナミックレンジ
です。

ご注意

ドルビーデジタルソフトによってはダイナミックレンジ“MIN”に対応していないものが
あり、音量が極端に下がる場合があります。そのような場合は、ダイナミックレンジを
“MAX”または“STD”に設定してください。

3. LFE LEVEL 設定範囲：-14dB～0dB（2dBステップ） 初期値：0dB



LFE信号の再生レベルを設定します。（ドルビーデジタル再生時のみ有効）
+、-キーを押してLFEレベルを設定します。

LFE信号は、ドルビーデジタル（AC-3）ソースにおいて、意図されたシーンでのみ出力
される特殊な低域効果音です。ドルビー社の推奨によりLFE 0dB時は、他の5チャン
ネルのレベルより+10dBに設定されています。使用するサブ（スーパー）ウーファーな
どの能率に応じてLFE LEVELを調整してください。

8. TV/DBS INPUT 設定内容：AUTO/LAST 初期値：AUTO



TV/DBSの入力モードを設定します。

AUTO 電源オン時の入力の優先順位を、1デジタル 2アナログに設定し、入力を自動
選択します。

LAST マニュアルで設定した入力（29ページ）を、電源オフ時も保持します。



リモコンのラーニング機能

本リモコンは、他の機器のリモコン信号を記憶するラーニング機能を持っています。ラーニングさせておけば、本リモコンでヤマハ以外のAV機器をコントロールすることができます。

押してもTRANSMIT/LEARNインジケータが点灯しないキーは「空き」キーです。

エリアB、Cのプリセット済みのキーにもラーニングさせることができます。ラーニングさせても、プリセット機能は上書きされるだけで消去はされません。ラーニング内容を消去すると、再度プリセット機能を使うことができます。

ラーニングできるキーについて

イラストの  で示されたキーがラーニングできます。〇〇、、WMキーとTVキー、VCRキーもラーニングできます。

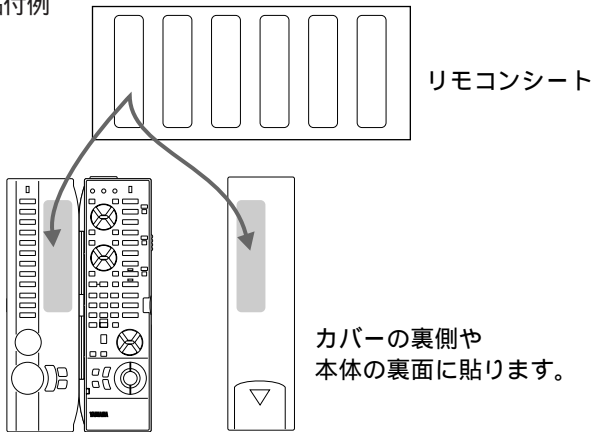
A/B/C切換スイッチがAのとき（エリアA）はイラストで示すようにラーニングできません。

A/B/C切換スイッチがBまたはCのとき（エリアB、C）はプログラムキー、+10キー、TESTキーもラーニングさせることができます。

ラーニングさせるときは、本リモコンのキーマークと、他の機器のリモコンのキーマークを一致させておくとう便利です。TVキーやVCRキーには、テレビやビデオデッキの電源スイッチの信号をラーニングさせておくことをおすすめします。ラーニングできるキー数は約20キーです。（ラーニング内容により異なります。）

ラーニング後は、付属のリモコンシートに名称/機能などを記入して活用ください。

貼付例



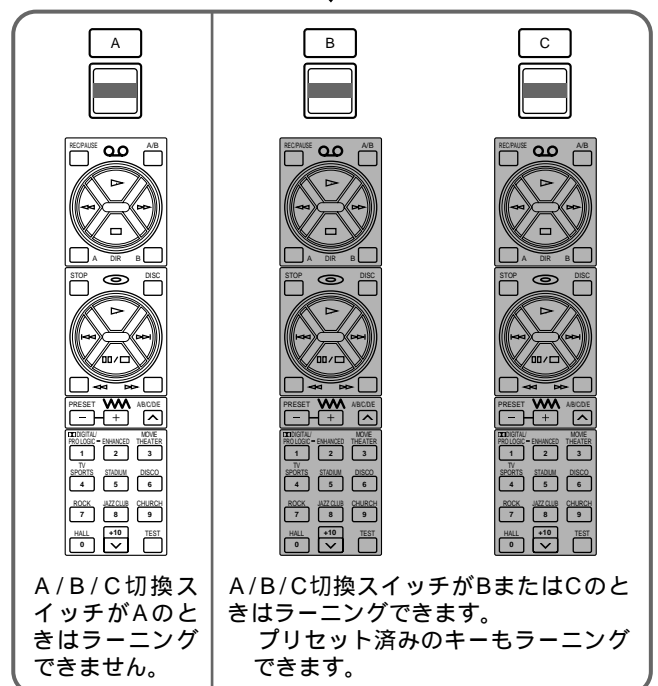
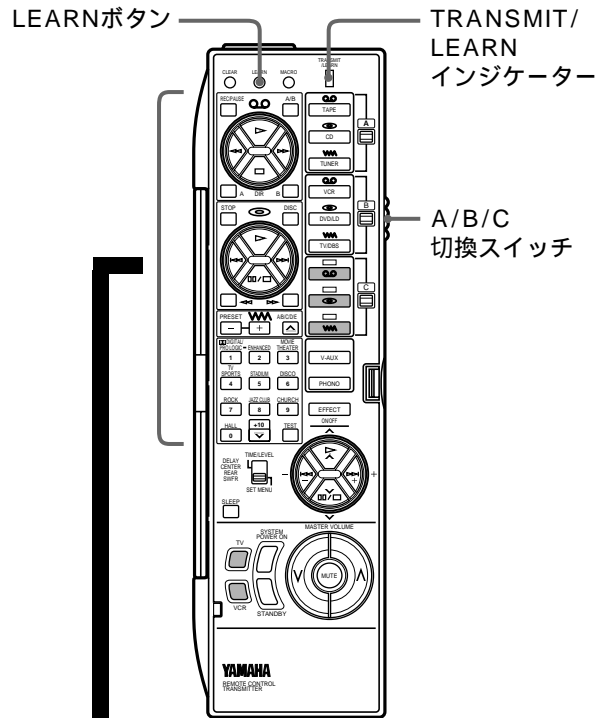
ラーニングの前に

本リモコンは赤外線方式を使用しています。外部機器のリモコンが同じ赤外線方式であれば、ほとんどのリモコン信号をラーニングできますが、特殊な信号や非常に長い信号の場合、ラーニングできないことがあります。

また、メモリー容量がいっぱいになっている場合は、TRANSMIT/LEARNインジケータが早く点滅（エラー表示）、それ以上のラーニングはできません。新しいラーニングをするときは、ラーニング済みのキーから不要のものを消去してください。

ラーニング中にカバーを開けると、5秒後にTRANSMIT/LEARNインジケータが早く点滅、ラーニングモードは解除されます。

5秒以内にカバーを開けると、再びラーニングモードに戻ります。



ラーニングのさせかた

例：エリアCのVMPRESET + キーに、テレビをビデオ入力に切り換える信号をラーニングさせる。
また、TVキーにテレビの電源をオン/オフさせる信号をラーニングさせる。

1 本リモコンの送受信部と、外部機器リモコンの送信部を5～10cm間隔で向かい合わせます。

本リモコン 他のリモコン

5～10cmの間隔をあける

2 カバーを開け、LEARNボタンを押します。ボタンはボールペンなど先の細いもので押します。TRANSMIT/LEARNインジケータがゆっくり点滅、ラーニングモードを示します。

LEARN TRANSMIT/LEARN

ゆっくり点滅

ご注意
各手順の操作は約30秒以内に行ってください。30秒を経過すると自動的にラーニングモードは解除されます。その場合はもう一度LEARN ボタンを押します。

3 A/B/C切換スイッチをBまたはCに切り換え、ラーニングさせるエリアを選びます。エリアAのすべてのキーはラーニングできません。○○、○、VWキーおよびTVキーやVCRキーにラーニングさせるときは、この操作は不要です。

例：Cの位置に切り換えます。

4 本リモコンのラーニングさせるキーを押します。TRANSMIT/LEARNインジケータが点灯します。ラーニングできないキーを押すとTRANSMIT/LEARNインジケータが早く点滅（エラー表示）します。他のキーを押してください。

本リモコン 他のリモコン

例：PRESET + キーを押します

他の機器のリモコンのラーニングさせたいキーを、TRANSMIT/LEARNインジケータが消えるまで押し続けます。再びインジケータがゆっくり点滅すると次のラーニングができます。

5 本リモコン 他のリモコン

点灯 消灯 ゆっくり点滅

入力切換 例：テレビのリモコンの入力切り換えボタンを押します

6 他のキーをラーニングさせる場合は、3～5の操作を繰り返します。例：TVキーにテレビの電源のオン/オフをラーニングさせるときは、TVキーを押してからテレビのリモコンの電源ボタンを押します。

7 ラーニングを終えるときは、LEARNボタンを押します。


ラーニングができない（TRANSMIT/LEARNインジケータが点灯/点滅しない）ときは、下記の方法で、もう一度操作をし直してください。

- 本リモコンまたは相手のリモコンの電池が消耗している → 乾電池を2本とも新しい乾電池に交換する（本リモコン場合はRESETボタンを押す）
- 向かい合わせたリモコンの間隔が離れすぎている、または近すぎる → リモコンの間隔を5～10cmにして操作をする
- 内蔵のマイコンが応答しない → 電池ケース内のRESETボタンを押す

リモコンのラーニング機能

マクロの設定

マクロ設定について

マクロキー（マクロマークのついているインプットセレクター、〇〇キー、キー、WMキー、SYSTEM POWER ON/STANDBY：32ページ）には、最大7種類の操作を設定することができます。

オリジナルのマクロを設定して、システムの操作にお役立てください。

マクロ設定の前に

新しいマクロを設定しても、プリセットマクロ機能（32ページ）は上書きされるだけで消去はされません。設定したマクロの内容を消去すると再度プリセットマクロを使うことができます。

マクロ設定は、本リモコンのラーニング済み（またはプリセット）のキー信号をマクロキーに設定（転送）させていただきます。必要に応じてあらかじめ他の機器のキーをラーニングさせておいてください。

プリセットマクロのうしろに、新しい信号を追加することはできません。マクロ設定をすると、すべて新しい内容に変わります。

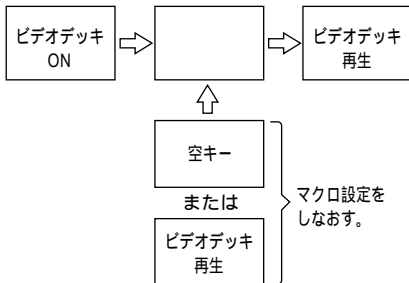
音量の操作など、連続的に操作するキー信号は、本リモコンは短時間のコードとしてラーニングします。したがって、そのようなキーのマクロ設定はおすすめしません。

マクロ操作が希望通りにできないときは

“ QUICK ” 位置で操作している場合は、“ SLOW ” 位置に切り換え、もう一度操作する。

または、マクロ操作の中に「空きキー」または同じ「操作」をマクロ設定してください。

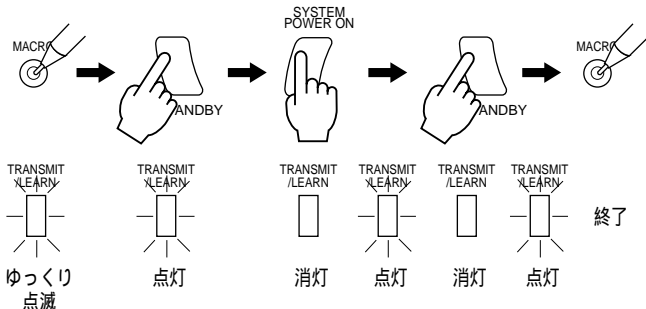
例：ビデオが再生できない、または再生までに時間がかかる場合



ご注意

ヤマハBSチューナーDBS-1000を接続している場合はDBS-1000の電源がオンのときに、本機の電源をリモコンでオン/オフするとBSチャンネルが切り替わってしまいます。次のような手順で設定してください。

- ① DBS-1000の電源コードを本機のAC OUTLET につなぎ、電源のオン/オフを本機と同期させる。
- ② リモコンSTANDBYキーに、SYSTEM POWER ON、STANDBYの順でマクロ設定する。

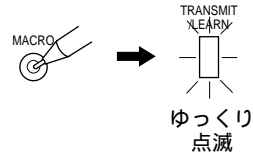


マクロ設定のしかた

例：テレビの電源を入れ、入力をビデオに切り換える操作をWMキーにマクロ設定する。

カバーを開け、MACROボタンを押します。

TRANSMIT/LEARNインジケータがゆっくり点滅、マクロ設定モードを示します。



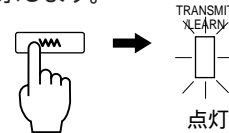
1

ご注意

以降の手順の操作は約30秒以内に行ってください。30秒を経過すると自動的にマクロ設定モードは解除されます。そのような場合は、もう一度MACROボタンを押します。

カバーを開けたまま、設定するマクロキーを押します。

TRANSMIT/LEARNインジケータが点灯、マクロ設定可能を示します。



2

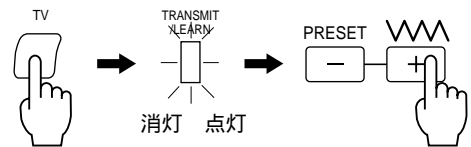
例：WMキーを押します。

ご注意

マクロキー以外のキーを押すとTRANSMIT/LEARNインジケータが早く点滅（エラー表示）します。

本リモコンの設定させるキーを、TRANSMIT/LEARNインジケータが消えるまで押し続けます。

再び点灯すると、次のマクロ設定ができます。



3

例：あらかじめラーニングさせておいた（49ページ）TVキー、PRESET+キーの順に押します

ご注意

TRANSMIT/LEARNインジケータが早く点滅するときは、そのキーはマクロ設定できません。

最大7種類のキー信号を設定することができます。7つ目のキー信号を設定するとTRANSMIT/LEARNインジケータが早く点滅、自動的にマクロ設定モードは解除されます。

マクロ設定を終えるときは、MACROボタンを押します。

例：これでWMキーを押すだけで、テレビの電源が入り、テレビの入力がビデオに切り換わります。

4

他のマクロキーに他のマクロ設定をするときは、手順1から操作を繰り返します。

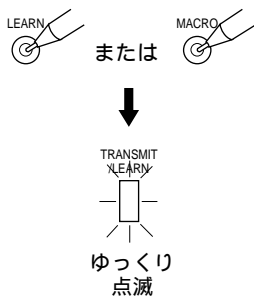
ラーニング内容の消去

キーごとに消去するには

ラーニングの内容を消去するときはLEARNボタンを、マクロラーニングの内容を消去するときはMACROボタンを押します。

TRANSMIT/LEARNインジケーターがゆっくり点滅します。

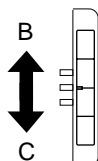
1



消去したいキーに合わせて、A/B/C切換スイッチをBまたはCの位置に切り換えます。

マクロラーニングの内容を消去するときは、この操作は不要です。

2

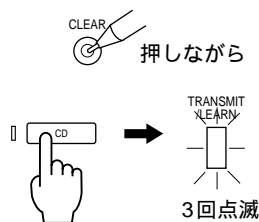


CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押し続けます。

TRANSMIT/LEARNインジケーターが3回点滅すると消去は完了です。

消去したいキーが複数あるときは、CLEARボタンを押し続けながら、次のキーを押します。

3



消去を終えるときはCLEARボタンを離します。

消去されたキーの信号は、もともとプリセットされていた信号に戻ります。

4



すべてのキーを消去するには

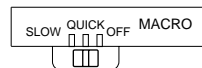
MACROスイッチを消去する内容に合わせて。

OFF： すべてのラーニング内容を消去する場合

QUICK： すべてのマクロ設定を消去する場合

SLOW： すべてのラーニング内容およびマクロ設定を消去する場合

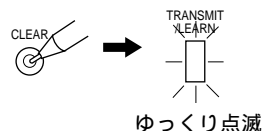
1



CLEARボタンを押します。

TRANSMIT/LEARNインジケーターがゆっくり点滅します。

2



ご注意

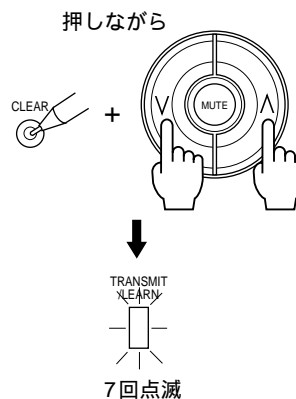
MACROスイッチを切り換えたり、他のキーを押したり、30秒以上何の操作をしない場合は、TRANSMIT/LEARNインジケーターが早く点滅（エラー表示）したあと、消去モードは解除されます。そのような場合は、もう一度CLEARボタンを押してください。

もう一度CLEARボタンを押しながら、MASTER VOLUMEキーの、/、\キーを同時に押し続けます。

TRANSMIT/LEARNインジケーターが7回点滅すると、消去は完了です。

消去されたキーの信号は、もともとプリセットされていた信号に戻ります。

3



メモリーバックアップについて

ラーニングした内容は、乾電池の交換時など、電池が外された時間が短時間の場合はメモリーされます。しかし、消耗した乾電池を使用したり、長時間乾電池が外されていたときは消えます。そのようなときは、もう一度ラーニングし直してください。

故障かなと思ったら

本機を使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しないとき、あるいは下記以外で何らかの異常が認められましたら、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点に、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

本機を使用中に強い外来ノイズ（落雷、過大な静電気など）を受けたり、誤った操作をした場合などに、本機が正常に動作しなくなることがあります。このような場合は、本機の電源を切り電源プラグをコンセントから抜き、約30秒後に再びつないで操作し直してください。

共通

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです	参照ページ
POWERスイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの接続が不完全	電源プラグをコンセントにしっかり差し込み直してください	18
	スピーカーコードがショートしている	電源コードを抜き、スピーカーの接続をやり直して再度電源コードを差し込みます	16
電源が切れて、POWERスイッチを押しても入らない	IMPEDANCE SELECTORの位置がずれている	ツマミを上側または下側に、正確にセットしてください	17
音が出ない	インプットセレクターが再生したい入力ソースにセットされていない	再生したい入力ソースのインプットセレクターを押してください	29
	ボリュームが絞られている	本体またはリモコンのVOLUMEで音量を上げてください	29
	接続が不完全	接続を確認してください	9～18
片チャンネルの音が出ない	接続が不完全	接続を確認してください	9～16
	BALANCEがどちらか一方に回しきられている	BALANCEツマミで左右の音量バランスを調整してください	20、21
ハム音が出る	ピンプラグコードの接続が不完全	ピンプラグをしっかりと差し込み直してください	12～14
メインスピーカーから音が出ない	SPEAKERSスイッチがOFFになっている	SPEAKERSスイッチAまたはBを押して、ONにしてください	20、21
リア、センタースピーカーから音が出ない	EFFECT OFFになっている	EFFECTキーを押して、EFFECT OFF表示を消してください。	34
センタースピーカーから音が出ない	センターモードがPHANTOMになっている	センターモードを正しくセットしてください	24、25
	センターレベルが絞られている	センターレベルを上げてください	28
	音場プログラムNo.5～10を選択している	音場プログラムNo.5～10では、センターの音は出ません。（ドルビーデジタル再生時は出る場合もあります）	37
リアスピーカーから音が出ない	リアレベルが絞られている	リアレベルを上げてください	28
	音場プログラムNo.1またはNo.2でモノラルソースを再生している	他の音場プログラムを選択してください	36
本機を使用しているとテレビから雑音が出る	本機とテレビの設置場所が近すぎる	本機はデジタル信号を扱いますので、電波を扱う機器と離して設置してください	9
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴いていると、音が歪む	本機の電源が切れている	必ず本機の電源を入れてください	-
音場効果を加えた音が録音できない	本機のREC OUT端子に接続した録音機器で、	音場効果を加えた音を録音することはできません	42
オンスクリーン表示されない	リアパネルのON SCREEN SELECTORの設定が違っている	設定を確認してください	13

チューナー
FM放送受信時

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです	参照ページ
“バリバリ” “ガリガリ” という雑音が入る	モーターバイクや自動車のイグニッション ノイズをひろっている	FM屋外アンテナをできるだけ高く、道路から 離れた位置に設置し、同軸ケーブルで接続して ください	11
	サーモスタット付きの電気器具の雑音をひ ろっている	雑音を発生している電気器具に雑音防止器を取 り付けてください	-
ステレオ放送になると雑音 が多く聴きづらい	FM放送の特性により、放送局から離れた 地域やアンテナ入力弱い場合におきます	アンテナの接続を確認してください FM屋外アンテナを設置してください	11
オート選局ができない	FM放送の特性により、放送局から離れた 地域やアンテナ入力弱い場合におきます	屋外アンテナを多素子のものに変えてみてくだ さい マニュアル選局してください	11 38
ステレオ放送を受信中、ス テレオインジケーターが点 滅し雑音が多い	受信している放送局の電波が弱い 正しく選局されていない	受信地域の電界強度にあったアンテナを設置し てください もう一度選局してください	11 38
FM専用アンテナを使用し ているが、音がひずむなど 受信感が悪い	ある種の妨害電波を受けている	アンテナの設置場所を変えてください	11
ステレオ放送なのにモノラ ル受信になってしまう	マニュアル選局モードになっている	TUNING MODEキーを押してディスプレイに 「AUTO TUNING」を表示させます	38
プリセット選局ができない	プリセット（メモリー）が消えている	もう一度プリセットしてください	39、40

AM放送受信時

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです	参照ページ
音質が良くない (感度が悪い)	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不 完全になっている	AMループアンテナを接続し直してください	11
オート選局ができない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不 完全	AMループアンテナの方向を変えてください マニュアル選局をしてみてください 屋外にAM用のアンテナを張ってみてください	11
“ジー” “ザー” “ガリガ リ”などの連続雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯モー ター、サーモスタット付きの電気器具の雑 音をひろっている	AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取る と減少しますが、完全に除去するのは困難です	11
“ブンブン” “ヒュー ヒュー”などの雑音が入る	他の放送局による干渉を受けている 本機の近くでテレビを使用している	対策は困難です 本機からテレビを離してください	-

リモコン

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです	参照ページ
リモコンで操作できない	乾電池が消耗している 内蔵マイコンがフリーズした	乾電池を2本とも交換し、RESETボタンを押 してください	19
	リモコンと受光窓の間に障害物がある	障害物を移動してください	19
	リモコンの操作範囲から外れている	本体のリモコン受光窓に対して6m以内、角度 30度以内の範囲で操作してください	19
	受光部に日光や照明（インバーター蛍光 灯・ストロボライトなど）が当たっている	照明または本体の向きを変えてください	19

参考仕様

オーディオ部

定格出力 (パワーアンプ部)	
メイン(20Hz~20kHz、0.04% THD、8)	80W+80W
センター(20Hz~20kHz、0.07% THD、8)	80W
リア(20Hz~20kHz、0.07% THD、8)	80W+80W
ダイナミックパワー	
(IHFダイナミックヘッドルーム測定による)	
8	100W+100W
6	125W+125W
4	150W+150W
2	175W+175W
パワーバンド幅(0.09% THD 40W、8)	10Hz~50kHz
ダンピングファクタ(20Hz~20kHz、8)	80
入力感度/インピーダンス(100W/8 換算)	
PHONO MM	2.5mV/47k
CD他	150mV/47k
最大許容入力	
PHONO MM(1kHz 0.04% THD)	110mV
CD他 EFFECT ON、1kHz 0.5% THD)	2.2V
出力電圧/出力インピーダンス	
REC OUT	150mV/2.7k
PRE OUT MAIN	2.6V/1.1k
SUB WOOFER(MAIN SP:SMALL)	4.0V/1.2k
ヘッドホン出力/出力インピーダンス	
CD他(1kHz 150mV、8)	0.5V/390
周波数特性(20Hz~20kHz)	
CD他、MAIN	0±0.5dB
RIAA偏差	
PHONO MM	0±0.5dB
全高調波歪率(20Hz~20kHz)	
PHONO MM REC OUT 1V	0.02%
CD他 EFFECT OFF) SP OUT 40W/8	0.025%
S/N比(IHF-A、入力ショート)	
PHONO MM(2.5mV)	80dB
CD他 EFFECT OFF、150mV)	96dB
残留ノイズ	
MAIN L/R	170μV
チャンネルセパレーション(EFFECT OFF、Vol.-30dB)	
PHONO MM(入力ショート)1kHz/10kHz	60dB/55dB
CD他 入力5.1k ショート)1kHz/10kHz	60dB/45dB
トーンコントロール	
BASS 可変幅	±10dB 50Hz
ターンオーバー周波数	350Hz
TREBLE 可変幅	±10dB 20kHz
ターンオーバー周波数	3.5kHz
BASS EXTENSION	+6dB 50Hz

フィルター特性	
MAIN L/R	
(MAIN SP:SMALL)	H.P.F fc=90Hz 12dB/oct.
REAR L/R	
(REAR SP:SMALL)	H.P.F fc=90Hz 12dB/oct.
SUB WOOFER	L.P.F fc=90Hz 18dB/oct.
ギャングエラー	
MAIN L/R(0~ -60dB)	3dB

ビデオ部

ビデオ信号方式	NTSC
ビデオ信号	1.0Vp-p/75
Sビデオ信号	Y:1.0Vp-p/75 C:0.286Vp-p/75
最大許容入力	1.5Vp-p
S/N	50dB
モニターアウト周波数帯域	5Hz~10MHz、-3dB

DSP部

ドルビーデジタル(AC-3)デコーダー	YAMAHA YSS243B-F(1)
DSP	YAMAHA YSS245-F(1)
センターモード	ノーマル/ワイド/ファントム
テストトーン	L C R RS(RR) RS(RL)
プログラム数	
HiFi-DSP	6
CINEMA DSP	5
DOLBY PRO LOGIC	1
DOLBY DIGITAL	1

入出力部

入力端子	
デジタル音声信号	光:1(DVD/LD) 同軸:2(DVD/LD、TV/DBS)
アナログ音声信号	7(PHONO、CD、TAPE(MD)、 DVD/LD、TV/DBS、VCR、 VIDEO AUX)
コンポジット映像信号	4(DVD/LD、TV/DBS、VCR、 VIDEO AUX)
S映像信号	2(VCR、VIDEO AUX)

出力端子		
REC OUT	音声信号	2(TAPE /MD、VCR)
	コンポジット映像信号	1(VCR)
	S映像信号	1(VCR)
PRE OUT		6(MAIN L/R、CENTER、REAR L/R、SUB WOOFER)
SPEAKERS		5(MAIN L/R (A、B)、CENTER (SINGLE/DUAL)、REAR L/R)
MONITOR OUT	コンポジット映像信号	1
	S映像信号	1

チューナー部

< AM >

受信周波数範囲	531 ~ 1611kHz
実用感度	100 μ V/m
選択度	32dB
SN比	50dB
イメージ妨害比	40dB
スプリアス妨害比	50dB
歪率(1kHz)	0.3%

< FM >

受信周波数範囲	76.0 ~ 90.0MHz
50dB S/N感度(1kHz、100%変調)	
MONO	1.55 μ V(15.1dBf)
STEREO	21 μ V(37.7dBf)
イメージ妨害比	78dB
IF妨害比	76dB
スプリアス妨害比	120dB
AM抑圧比	44dB
キャプチャレシオ	1.5dB
実効選択度(±400kHz)	85dB
SN比	
MONO	80dB
STEREO	75dB
歪率(1kHz)	
MONO	0.1%
STEREO	0.2%
ステレオセパレーション(1kHz)	50dB
周波数特性(20Hz~15kHz)	0 ± 1.5dB

< オーディオ >

出力レベル/インピーダンス	
FM(100%変調、1kHz)	500mV/2.2k
AM(30%変調、1kHz)	150mV/2.2k

総合

電源電圧	AC100V 50/60Hz
消費電力	270W (IMPEDANCE SELECTOR設定: 下側) 230W (IMPEDANCE SELECTOR設定: 上側)
ACアウトレット	SWITCHED x 2 TOTAL 100Wmax
寸法(W x H x D)	435 x 151 x 391mm
重量	12.0kg
付属品	リモコン、単3乾電池(2本)、 FM簡易アンテナ、AMループアンテナ、 リモコン操作チャート、リモコンシート

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

* 「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

* 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスの依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買い上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

- 技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- 部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスを依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口
AVお客様ご相談センター
TEL (03) 5488 - 5500

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口)

- 北海道 〒064-0810 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108
- 仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249
- 首都圏 〒211-0025 川崎市中原区木月1184
TEL (044) 434 - 3100
- 東京 (お持ち込み修理のみ取扱い)
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11
TEL (03) 5488 - 6625
- 浜松 〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
TEL (053) 465 - 6711
- 名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230
- 大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)汗里丘センター内
TEL (06) 877 - 5262
- 広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787
- 四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック神戸高松店内
TEL (0878) 22 - 3045
- 九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



永年ご使用の本機の点検を!

こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1
AV機器事業部
営業部 TEL (053) 460 - 3451
品質保証室 TEL (053) 460 - 3405
住所および電話番号は変更になることがあります。

リモコン操作チャート

カバーを閉めて使う

マクロマーク
マクロ機能があるキーを示します。

EFFECTキー
音場効果をオン/オフします。

OPERATION CONTROLキー
インプットセクターで選んだ機器をコントロールします。各機器に対応した主要4キーの操作ができます。
ヤマハのテープデッキ、CDプレーヤー、チューナー、LDプレーヤーのコントロール信号はプリセットされています。
・その他の機器はラーニング後に操作できます。

SYSTEM POWER ON キー
電源を入れます。

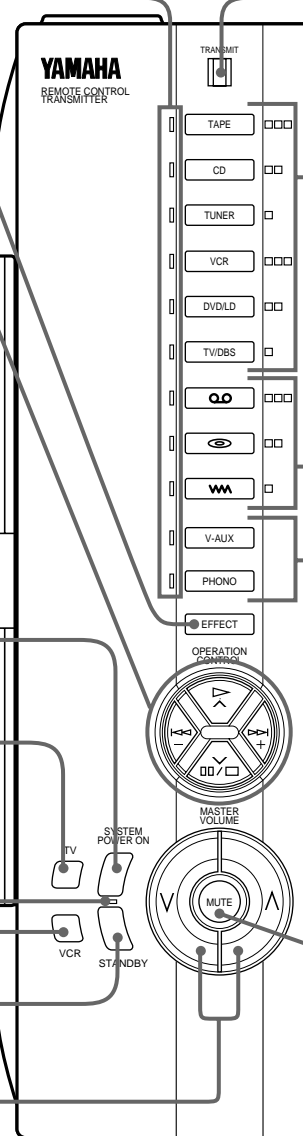
TVキー
現在空きキーです。

マクロマーク

VCRキー
現在空きキーです。


STANDBYキー
電源を切ります。

MASTER VOLUMEキー
音量を調節します。



TRANSMIT/LEARNインジケータ
*操作のためにキーを押しても点灯しないときは、そのキーに信号が入っていないか、電池が消耗しています。

インプットセクター
入力を切り換えます。
またプリセットマクロが働きます。
(MACROスイッチがQUICK、SLOW時)
マクロ操作例：
①電源オン(本体の電源オフ時) ②入力切換
③再生開始、など

空きキー
ラーニング後に使うことができます。
・ キーを押すとOPERATION CONTROLキーでヤマハのLDプレーヤーをコントロールすることができます。

MACROスイッチ
OFF: マクロ機能を使わないとき。
QUICK: マクロ機能を使うとき。
(通常はこの位置で使います。)
SLOW: マクロ機能を使うとき。
(QUICKでは操作できないとき。)

MUTEキー
押すと音量が下がります。
もう一度押すと、もとの音量に戻ります。

詳細は取扱説明書をご覧ください。

リモコン操作チャート

カバーを開けて使う

CLEARボタン

ラーニングした内容やユーザーマクロ設定を消去するときに使います。

LEARNボタン

で示した、エリアBまたはCのキーにラーニングさせるときに使います。

ラーニングのさせかた

- ① LEARNボタンを押します。
- ② ラーニングさせる本機のキーを押します。
- ③ 相手方リモコンのキーを押します。
- ④ LEARNボタンを押して終了します。

ゾーンコントロールキー

A/B/C切換スイッチで選んだ機器個別の操作をします。

・エリアB、Cの機器はラーニング後に操作できます。

音場プログラムキー

音場プログラムを選びます。

・ +10キーは現在空きキーです。

SLEEPキー

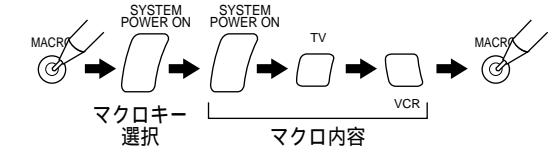
スリープタイマーを設定します。

120分 90分 60分 30分 解除

MACROボタン

マクロ設定するときに使います。

例：SYSTEM POWER ONキーを押すだけでTV、VCRの電源も入れる。



A/B/C切換スイッチ

操作する機器に合わせてエリアを切り換えます。

エリアインジケータ

A/B/C切換スイッチで選んだエリアが赤く表示されます。

TESTキー

スピーカーレベルを調整します。

タイム/レベル セットメニューコントロールキー
ディレイタイムやレベルおよびセットメニューなどの項目選択や設定をするときに使います。

TIME/LEVEL SET MENU 切換スイッチ
ディレイタイム/レベルまたはセットメニューを選択するときに切り換えます。
TIME/LEVEL : 音場プログラムのディレイタイムやスピーカーレベルの設定
SET MENU : スピーカーモードの設定

詳細は取扱説明書をご覧ください。

VZ52040

